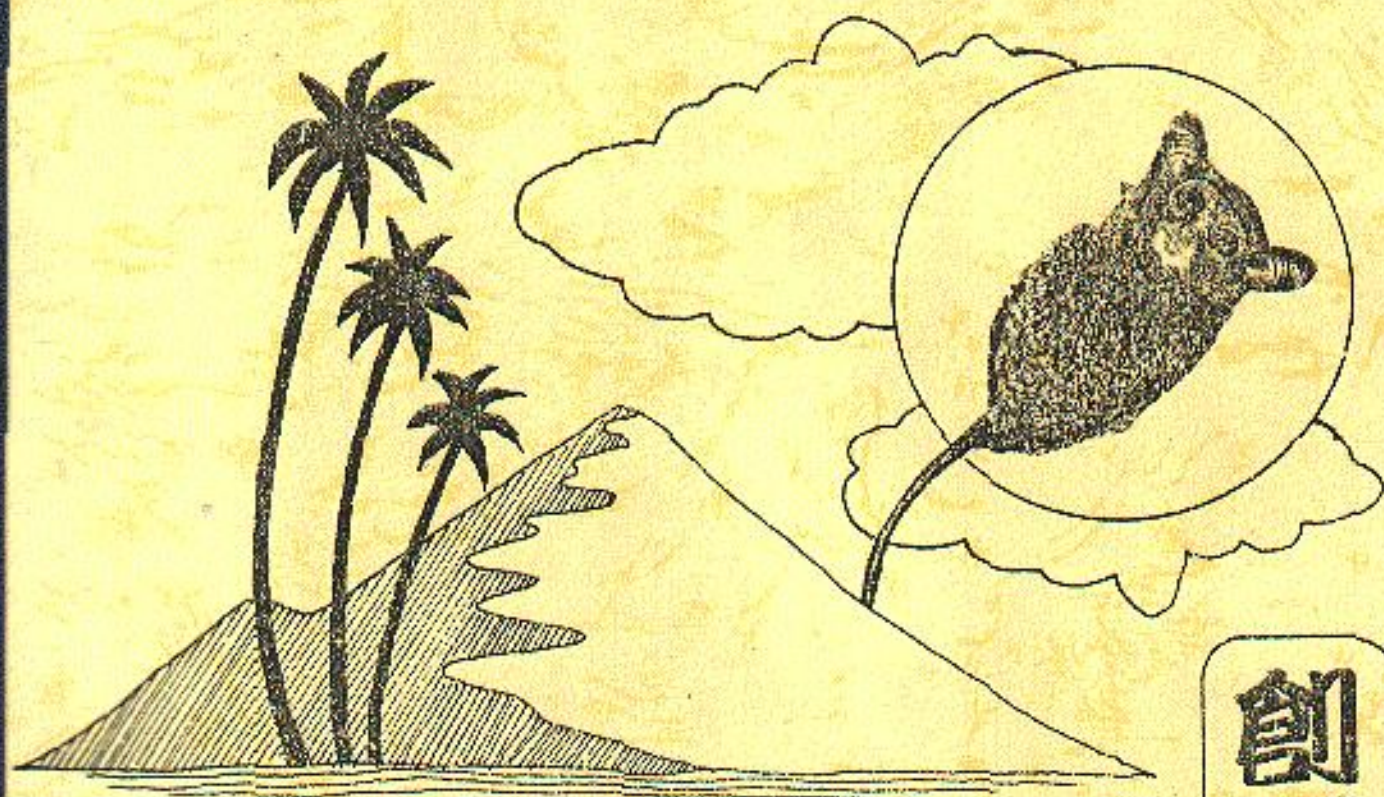




北スラウェシ 日本人会

NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

報 會
第 1 号



創刊号

- 1998年 7月 -

《 北スラウェシ日本人会会報 第1号 》

目 次

- ◇ ご挨拶 日本人会会長 前田良昭 2
- ◇ 北スラウェシ日本人会設立経緯について
日本人会副会長 川口博康 3
- ◇ 北スラウェシ日本人会設立に寄せて
在ワジュン・パンダン 日本総領事館 佐久間徹 5
- ◇ 北スラウェシ安全対策連絡協議会設立準備会報告書
安全対策連絡協議会会長 辻田武司 7
- ◇ 日本総領事館の案内 10
- 特別掲載 —
- ◇ 「インドネシア政変に関するトピックレポート」
第6章 ハビビ新体制の特徴
アジア経済研究所 松井和久 14
- ◇ 北スラウェシにおける宗教 川井雄二 23
- ◇ — 随筆 — マナドと3B 川井雄二 24
- ◇ ブナケン国立海中公園 森井まち子 25
- ◇ ミナハサ観光案内 川井雄二 29
- ◇ 日常の安全対策（交通事故） 海外安全マニュアル 32
- ◇ — 提案 — 書籍交換会 川井雄二 37
- ◇ 命の恩人に会いたい 1985年4月28日新聞記事 38
- ◇ インドネシア語クロスワード・パズル 川井雄二 39
- ◇ 編集後記 日本人会 編集部 40

ご挨拶

北スラウェシ日本人会設立にあたり一言ご挨拶を申し上げます。
去る6月13日土曜日に日本人会設立準備会を開催した所、多数の皆様方のご賛同とご協力を頂き、又、在ウジュン・パンダン総領事館より佐久間領事補佐を迎えご指導を頂きここに日本人会発足の運びとなりました事を心よりお喜び申し上げます。

今後、日本人会の運営につきましては、皆様方のご協力とご指導を受け賜り進展させ親睦並びに相互扶助またインドネシアとの親善の一助となる様努力致したいと願っておるいだいでございます。
今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

1998年6月吉日

北スラウェシ日本人会会長

前田 良昭



北スラウェシ日本人会設立経緯について

1. 今年3月6日 NOVOTEL MANADOに於いて

安全対策連絡協議会を北スラウェシ在住の邦人有志によって開催。

この席上、この地区に於ける日本人会設立の意見出される。

2. 北スラウェシ日本人会設立準備会を6月13日—NOVOTEL

にて開催。出席者有志15名 佐久間領事補佐官に特別出席頂き

最近のインドネシア情勢についてお話頂く。

日本人会設立の方向で準備開始することとなる。

各役員を選出 各会員の情報交換 など話合われる。

3. 第一回理事会開催

日時： 6月17日

場所： KAJIMA—TEGUH 宿舎

議題： 会規約作成

行事について

会報の発行について

部会について

その他

4. ゴルフ部会 日帰りツアーについて

日時： 6月23日

場所： NOVOTEL

議題： ゴルフコンペ（特に地元の皆さんとの親睦を目的に）について

提案者の大村氏の趣旨説明

8月23日開催目標で今後牛崎氏中心に検討する。

ブナケン島日帰りツアー7月26日実施で八巻氏にコーディネート

願います。

総領事当地公式ご訪問について打合せ。

5. 北スラウェシ日本人会総会開催

日時： 7月9日 19時

場所： NOVOTEL

出席者： 松田 勲 総領事ご夫妻 金子領事 他

日本人会メンバー23名 合計27名

議題： 松田名誉会長の挨拶

前田 会長の挨拶

名称の決定 北スラウェシ日本人会

NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

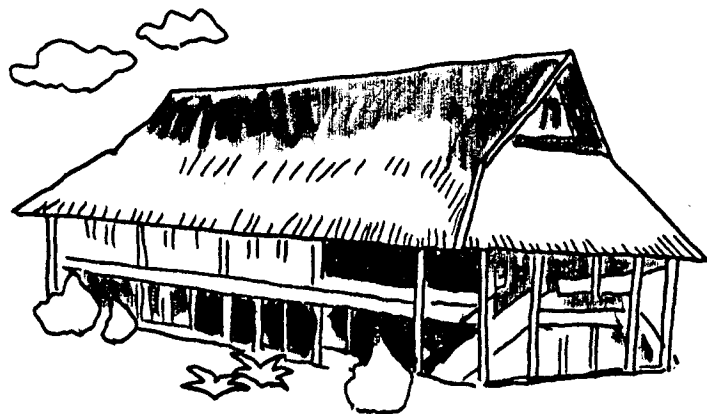
その他、質疑応答

親睦会

松田総領事主催による懇親パーティー

北スラウェシ日本人会 役員

名誉会長	松田 勲	総領事
会 長	前田 良昭	
副会長	川口 博康	
理 事	高沢 直美	
理 事	西村 計一	
理 事	内田 忠茂	
監 査	辻田 武司	



北スラウェシ州日本人会の発足、おめでとうございます。

私が初めて北スラウェシ州を訪れたのは1970年代の末ですから、もう二昔前になります。当時はバンダ海でマグロ漁をするためにはるばる日本からやってくる日本漁船が多く、毎年その内の数隻は領海侵犯や密漁容疑で拿捕されていました。ウジュンパンダンに日本総領事館が開設されたのは1977年ですが、当時、多くの日本漁船が東部インドネシア海域で拿捕されていたことが総領事館開設の理由の一つであったと聞いています。

日本漁船拿捕の一報が入る度にソコン、アンボン、ビトゥンなどに出張し、日中は漁船員からの事情聴取と検察や海軍との交渉、夕方ホテルに戻って総領事館に電話連絡、水をかぶってマンディをした後は、レストランで検事や海軍軍人と夕食をともにする一日。これが1週間近く続いたケースもありました。今となっては懐かしい思い出ですが、当時の私は大学生生活を終えたばかりで実社会での経験は皆無でしたので、正直に言ってかなり苦勞したことをよく覚えています。

当時のビトゥンはまだ市制も敷かれておらず、埃っぽいだけが印象的なごく小さな港町でした。メナドも、市民の足である馬車が沢山走っており、乾季に訪れると道路上の馬糞が粉になって空中を飛び交っていました。勿論、ダイビングスポットのブナケンはまだその名前さえ知られておらず、ホテルもカワヌアホテルほか数軒があるだけ、市内のタクシ一も時間単位で借り上げる白タクだけでした。

白タクについては、奇妙に今でも記憶していることがあります。何度目かの出張の折、メナドとビトゥンの往復に白タクをチャーターしたわけですが、この運転手がVan Houten（木製のという意味）という名前でした。この名前を聞いた時、先ずチョコレート「バンホーテン」が頭に浮かび、次いで、ミナハサ地方はオランダが古くから植民地経営に力を入れ、オランダ人との混血の歴史も古い土地だということは書物から承知はしているものの、実際にファン・ハウテン（実際にはこう発音する）という名前の運転手が自分の目の前に座っている状況に遭遇してみると、この土地の歴史上の一コマを垣間見た思いにとらわれ、オランダ植民地化の歴史は現代にこういう足跡となって現れるのかと変に納得した次第です。

北スラウェシ州といった時に先ず頭に浮かぶのはミナハサ地方であることから伺えるように、北スラウェシ州の歴史はミナハサ地方の歴史であるといっても過言ではないでし

よう。イスラム教の優勢なゴロンタロ地方は見過ごされがちですし、ましてやゴロンタロ地方が南スラウェシよりも早くイスラム化した事実はほとんど知られていません。

ミナハサ地方は、17世紀初頭にオランダ東インド会社が進出してポルトガルとスペインの両勢力を駆逐し、これ以降オランダ植民地化が進んでいきます。オランダは先発のカトリックの影響を一掃するためにプロテスタントの布教、そして地元民向けの神学校運営にも力を入れました。インドネシア国内でミナハサ地方住民の教育レベルが伝統的に高いといわれるのは、このオランダの活動と無縁ではありません。

オランダの残した遺産は経済面でも大きく、1670年にヤシ、1796年にコーヒー、1805年にカカオ、少し遅れてクローブとナツメグ、さらに1925年にはゴムのプランテーションが始められるなど、今日の北スラウェシ州経済を支えるプランテーション作物の多くはオランダ時代に導入されたものです。このように、北スラウェシ州の歴史はオランダ植民地経営の歴史と大きく重なっていると言えるでしょう。

最後に、インドネシア人の中でよく口に出るエスニック・ジョークの一つに、“Boleh makan bubur Manado, tetapi jangan makan bibir Manado”「メナドの粥は食べてもいいけれども、メナドの唇は食べないでね」というものがあります。このジョークのミソは bubur と bibir が語呂合わせになっているところにあります。bubur Manado は皆様も既に御存知のとおりメナドの名物料理の一つですが、口の悪い人に言わせると「猫が吐き出した残飯」とのことで、メナド女性が如何に料理を怠けているかが分かるとか。それでは bibir Manado とは如何なるものか。bibir は唇のことですから、中華料理の魚の唇のスープ (sup bibir ikan) のようなものなのか、人間の唇と関係があるのか、浅学非才の私にはよく分かりません。このジョークが女房族から亭主に向けてよく言われることや、メナドが美人の産地として知られていることなどを考え併せてみると、人間、特に女性の唇と大いに関係があるかとも思いますが、メナド女性の唇を至近距離から注意深く観察した経験のない私にはよく分かりません。北スラウェシ州日本人会会員の中には若い方も多いようですから、メナドの唇に感わされて、食べてから消化不良を起こしたりすることのないよう注意して、本務に頑張ってくださいと思います。

現在のインドネシア情勢を鑑み、在留邦人各自が緊急連絡体制確保の必要性を感じていた中、ビトン在住の前田氏の呼びかけにより、安全対策連絡協議会の設立準備会が以下のように行われた。

1. 日時 : 1998年3月6日(金) 午後3時より

2. 場所 : NOVOTEL MANADO 1階コーヒーショップ

3. 出席者

田口(総領事館)、荒井、井上、内田(格)、大茂、押川、川井、川口(博)、高澤、辻田、平野、前田、村上、八巻

4. 内容

①自己紹介

②田口理事官より、インドネシア情勢及び当会設立の趣旨の説明

③情報交換、問題提起

- ・安全対策連絡協議会の方針に関して
- ・“日本人会”設立に関して
- ・イミグレーション等による不当行為に関して
- ・関係官庁への登録や報告に関して
- ・非常事態時の行動、対する現実に関して
- ・当地の日系2世の方に顧問になってもらうのはどうか、等々

④役員を選出、承認

出席者全員の承認により次のように決定した。

安全対策連絡協議会会長	辻田
ビトン支部長	押川
マナド支部長	八巻

⑤緊急連絡網の作成

5. 所感

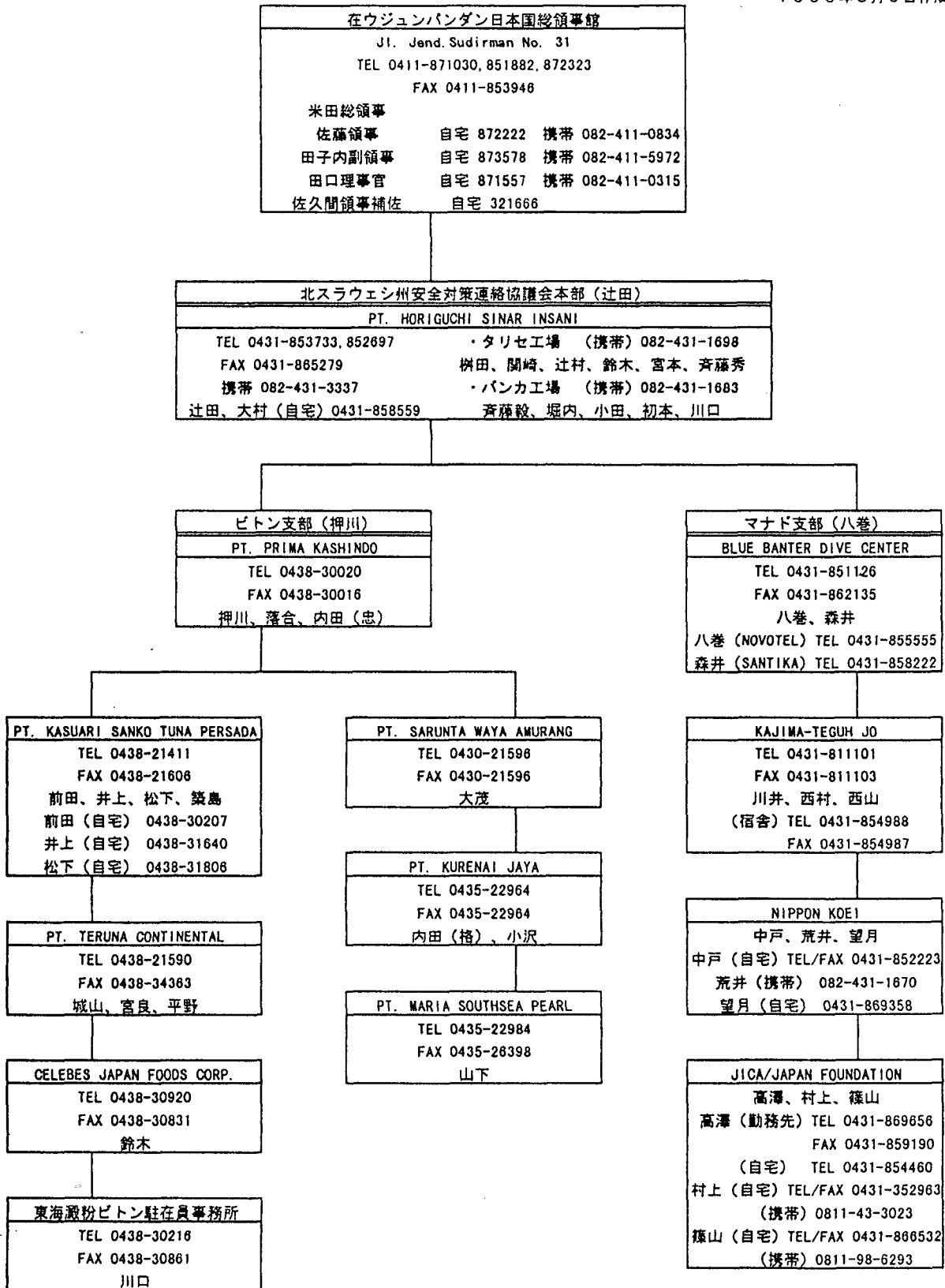
北スラウェシ州に在住する邦人がこれほど集まることはこの数年なかったか初めてのことであり、出席者の間で今までの経験や問題点が活発に議論された。会終了後、食事をとりながらの懇談会では一層の親睦を深めることができた。

現在の情勢の中、当面必要となる緊急連絡体制が確立した後、有志による“日本人会”の設立が期待される。これには単なる連絡会とは違った、より幅の広い交流、情報交換の場であってほしいと願う。反対に、安全対策連絡協議会は非常時を想定した情報中継地であり、私たち自身の安全を守る為、日常から準備研究することを目的にしぼりたい。(辻田)

以上

北スラウェシ州在留邦人緊急連絡網

1998年3月6日作成



各グループで筆頭の方が、そのグループでの連絡責任者です。
 連絡網最後の方は、連絡が伝わった旨を所属支部長まで知らせて下さい。支部長はその旨を本部まで知らせて下さい。
 FAXによる通信では、誰が受け取っても日本人に適切に連絡が伝わるように、インドネシア語を付け加える等、配慮して下さい。
 日本語のできないスタッフが連絡を受け取った場合を想定して、その後の処置について、事前に打ち合わせておく必要があります。
 自分の次に当たる人に連絡不可能な場合、とりあえず一つ飛び越えて連絡して下さい。この事は所属支部長に連絡して下さい。
 人員構成・連絡先等の変更や、帰国の場合は、ウジュンパンダン総領事館および安全対策連絡協議会本部に速やかに連絡することをお願いします。
 出張や一時帰国等で連絡先を離れる場合、同グループの方および連絡網の前後の方に一声かけるようにお願いします。
 在留地で緊急事態に遭遇された場合や、その様な情報を得た場合、総領事館に連絡すると共に近隣者、本部に適切に連絡して下さい。

外務省「海外危険情報」について

平成9年12月17日

1. 外務省は、12月18日より、「渡航情報」、「退避勧奨」および「退避勧告」を統合し、「海外危険情報」と総称する(今後「渡航情報」という用語は用いない。)こととした。また、渡航或いは滞在に当たって通常以上の特別な注意が必要な国・地域の治安状況等を5段階の危険度に区分し、「注意喚起」、「観光旅行延期勧告」、「渡航延期勧告」、「家族等退避勧告」、「退避勧告」の5種類の「海外危険情報」を発出することとした。
2. 外務省は、従来より、海外における日本人の安全対策の一環として、特定の国または地域の治安や安全性に関する情報提供を行ってきた。その際、治安の激しい悪化や災害、騒乱、その他の緊急事態が発生したり、または発生の可能性が高まっていると判断される場合には、海外への渡航にかかる「渡航情報」として、「注意喚起」、「観光旅行自粛勧告」および「渡航自粛勧告」を状況に応じて発出していた。また、現地に滞在している邦人が安全な国・地域へ退避する必要があると判断されるに至った場合には、現地滞在にかかる情報として「退避勧奨」や「退避勧告」を発出していた。
3. 従来の制度は、海外への渡航にかかる情報提供を行う「渡航情報」(注意喚起、観光旅行自粛勧告、渡航自粛勧告)と、現地滞在にかかる情報提供を行う「退避勧奨・退避勧告」について、対象や目的が異なることから別系統の情報として取り扱ってきた。しかし、渡航情報も退避勧奨・退避勧告も特定の国・地域の治安や安全性に関する情報であることから、両者を統合し、段階的に発出することとした。
また、名称については、メッセージをより伝わり易くするため、「観光旅行自粛勧告」、「渡航自粛勧告」および「退避勧奨」はそれぞれ「観光旅行延期勧告」、「渡航延期勧告」および「家族等退避勧告」に変更し、「注意喚起」および「退避勧告」は名称を変更せず現行の名称を踏襲することとした。
4. なお、各々の「海外危険情報」の趣旨は以下のとおりである。

(1)危険度1「注意喚起」

当該国(地域)への渡航、滞在に当たって通常以上の特別な注意が必要とされることを通報し、必要な安全対策について注意を喚起するもの。

(2)危険度2「観光旅行延期勧告」(旧名称:「観光旅行自粛勧告」)

当該国(地域)への観光等を目的とする不急の渡航の延期を勧めるとともに、現地に滞在している邦人に対しては「観光旅行延期勧告」が発出されたことを周知の上、状況に応じた注意を払うよう勧めるもの。

状況により、旅行者の出国を勧める場合もある。

(3)危険度3「渡航延期勧告」(旧名称:「渡航自粛勧告」)

当該国(地域)への全面的な渡航の延期を勧めるとともに、現地に滞在している邦人に対しては「渡航延期勧告」が発出されたことを周知の上、状況に応じた注意を払うよう勧めるもの。状況により、現地に滞在している邦人のうち事情が許す者の出国を勧める場合もある。

(4)危険度4「家族等退避勧告」(旧名称:「退避勧奨」)

危険度3「渡航延期勧告」の趣旨に加え、当該国(地域)よりの退避、引き揚げに必要な準備を行うよう勧めるとともに、現地に滞在している邦人のうち家族等の事情が許す者に対しては、安全な国(地域)への退避(本邦への引揚げを含む。)を勧めるもの。

(5)危険度5「退避勧告」

危険度3「渡航延期勧告」の趣旨に加え、現地に滞在している全ての邦人に対して当該国(地域)より、安全な国(地域)への退避(本邦への引揚げを含む。)を勧めるもの。

「海外危険情報」は法令上の強制力をもって渡航を禁止したり、退避を命令したりするものではありません。

在ジャカルタ総領事館

Consulate-General Service

在ジャカルタ日本国総領事館は在インドネシア日本国大使館に併設されており、ジャカルタ中心部タムリン通りに位置し、日本人がインドネシアで生活するうえで欠かせない様々な行政サービスを行っています。今回は、旅券関係と証明書関係に絞ってまとめましたが、そのほか戸籍関係や国籍関係の手続き等については、直接在ジャカルタ日本国総領事館へご照会ください。

在ジャカルタ日本国総領事館

Consulate-General of Japan at Jakarta

- Jl. M. H. Thamrin 24,
Jakarta
- Tel : (021) 324308
- 月～金曜
8:30～12:00, 13:30～15:00

8

日本人
関係団体

■ 旅券、証明関係

● 旅券の有効期間

申請時に10年か5年を選択(20歳未満の人は5年)。残り有効期間1年未満、もしくは査証欄に余白がない場合(一度は増補可能)になれば、新しい旅券への切替(新規発給)を申請できます。古い旅券に記載されていた滞在許可や査証については各国大使館にお問い合わせ下さい。

● 旅券、証明関係の手続き

※旅券関係についての代理人は日本人に限ります。証明関係についての代理人は国籍を問いません。

いずれも委任者、受任者双方の署名捺印による委任行為が完了していることが必要です。

● 在留届の提出

旅券法第16条により、海外に3ヵ月以上滞在する日本人は、大使館に「在留届」を提出するよう義務付けられています。

本届出は、在外邦人の実態把握のための資料として重要なものであり、また、未届者は、緊急事態発生時のもとより、不測の障害その他各種事件発生等に際し、必要な保護援助を受けられないこともあり得、更に、「在留証明書」の発給条件でもありますので、かならず総領事館に届出てください。

● 申請・交付時間

申請受付・交付時間は午前中8:30～12:00、午後13:30～15:00のみです。

■ インドネシア国内のその他の公館等

◎ 在インドネシア日本国大使館

EMBASSY OF JAPAN IN INDONESIA
Jl. M. H. Thamrin No. 24
Jakarta Indonesia
Tel: 021-324308
Fax: 021-325460

◎ 在スラバヤ日本国総領事館

CONSULATE-GENERAL OF JAPAN
AT SURABAYA
Jl. Sumatera No. 93
Tel: 031-5344677/5340003
Fax: 031-5315872

◎ 在メダン日本国総領事館

CONSULATE-GENERAL OF JAPAN
AT MEDAN
Jl. Suryo No. 12
Tel: 061-531192
Fax: 061-511447

◎ 在ウジュンバンダン日本国 総領事館

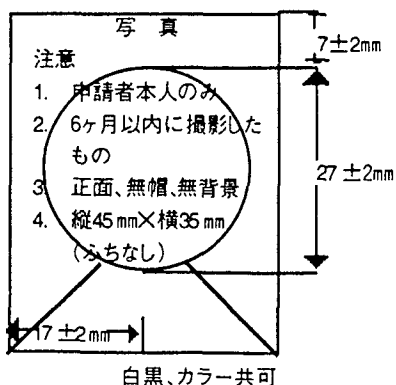
CONSULATE-GENERAL OF JAPAN
AT UJUNG PANDANG
Jl. Jenderal Sudirman 31
Tel: 0411-871030/872323
Fax: 0411-853946

◎ 在デンパサール駐在官事務所 (在スラバヤ日本国総領 事館)

BRANCH OFFICE IN DENPASAR
CONSULATE-GENERAL OF JAPAN
AT SURABAYA
Jl. Raya Puputan, Renon
Tel: 0361-227628
Fax: 0361-231308

申請の種類	申請	必要書類	どのような場合に必要	日数	手数料
【旅券関係】 新規(切替)発給	申請のみ 代理可(日本人) 交付は 本人出頭	1. 一般旅券発給申請書 2. 戸籍謄(抄)本 (発行日より6ヶ月以内のもの。在留届提出後3ヶ月を経過し、旅券記載事項と相違がなければ免除) 3. 写真2枚、写真の規格については注参照 4. 現在所持している旅券	1. 有効期限が1年未満になった場合 2. 併記者を分離する場合 3. 子供が外国で生まれた場合 4. 旅券の査証欄に余白がなくなった場合 (査証欄増補は1回のみ)	7日間	平成9年4月1日から平成10年3月31日まで 326,000ルピア (10年有効旅券) 217,000ルピア (5年有効旅券) 109,000ルピア (12歳未満の申請者)
再発給	申請および 交付とも 本人出頭	1. 一般旅券再発給申請書 2. 写真2枚、規格については注参照 3. 損傷した旅券または紛失事実を証明する書類 (警察署からの紛失(盗難)届出証明書)	1. 旅券を損傷した場合 2. 旅券を紛(焼)失した場合	約1~2週間 後	261,000ルピア (10年有効旅券) 174,000ルピア (5年有効旅券) 87,000ルピア (12歳未満の申請者)
訂正	申請および 交付とも 代理可	1. 一般旅券訂正申請書 2. 訂正する内容を立証する書類(戸籍謄(抄)本など) ただし、併記抹消、身長 の訂正には不要。 3. 現在所持している旅券	1. 併記してある15歳未満の子供を抹消する場合(子供は新規発給申請) 2. 旅券記載事項(本籍など)を訂正する場合	翌日	20,000ルピア
査証欄増補	申請および 交付とも 代理可	1. 一般旅券査証欄増補申請書 2. 現在所持している旅券	・旅券の査証欄に余白が無くなりそうな場合	当日	54,000ルピア

注)写真の規格



申請の種類	申請	必要書類	どのような場合に必要	日数	手数料
帰国のための渡航書	申請および交付とも本人出頭	<ol style="list-style-type: none"> 1. 渡航書発給申請書 2. 警察署からの紛失証明書 3. 日本国籍を立証する書類(運転免許証等) 4. 写真2枚(4.5×3.5cmで、6ヵ月以内のもの) 5. 帰国便の航空券 	・旅券を紛失したが再発給を待たず帰国する場合	面談の上決定	平成9年4月1日から平成10年3月31日まで 54,000ルピア
【各種証明関係】 在留証明書(和文)	申請本人受領代理可	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在留証明願書 2. 旅券 3. インドネシア官憲当局発行の公文書で自宅住所を立証できるもの ※在留届提出済が要件 	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産の売買 ・遺産の相続 ・自動車の売買 ・年金、恩給の受領 ・帰国後の受験申請など 	翌日	26,000ルピア
身分の記載事項証明	申請および受領とも代理可	<ol style="list-style-type: none"> 1. 証明発給申請書 2. 戸籍謄本(抄本) ※3ヶ月以内発行(一名についての証明の場合のみ抄本で可) 	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在許可の有効期間延長 ・労働許可証の申請 ・インドネシア国籍者との結婚 ・所得税控除など 	翌日	26,000ルピア
署名(ば印)証明	申請は本人出頭受領は代理可	<ol style="list-style-type: none"> 1. 署名証明申請書 2. 証明すべき署名のある書類(署名は面前にて) 3. 旅券 	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産の売買 ・遺産の相続 ・自動車の売買 	翌日	37,000ルピア
遺骨(体)証明	申請、受領については事前確認	<ol style="list-style-type: none"> 1. 証明発給申請書 2. 遺骨 3. 故人の死亡事実を立証できる公文書 4. 故人の遺骨(体)であることが確認できる文書 	・インドネシアで死亡した人の遺骨(体)を日本へ運ぶ際に必要な場合	面談の上決定	54,000ルピア

氏名	ローマ字 (ヘボン式)	(Surname)	(Given name)	生年月日 西暦 年 月 日生	
	漢字	(姓)	(名)	(*) 1.男 2.女	(*) 1.既婚 2.未婚
本籍					
出生地		国	州	市町村	(*) 1.業務 2.修学 3.永住 4.その他 ()
職業		1. 民間企業関係者 2. 報道関係者 3. 自由業及び専門的職業関係者 4. 留学生・研究者・教師 5. 政府関係機関職員 6. その他 ()			
日本における所属先 (勤務先、学校等)		電話番号	在留地における所属先 (勤務先、学校等)		電話番号
在留地の住所 又は居所		電話番号			
在留地の緊急連絡先及び住所		氏名又は名称		電話番号	
日本国内の連絡先		氏名		本人との関係	
		住所		電話番号	
旅券		旅券番号	発行年月日 19 年 月 日	発行官庁	
到着日		19 年 月 日	滞在予定	西暦 年 月頃まで	

同居家族

続柄	氏名	旅券			
	(ローマ字)	旅券番号	発行年月日 19 年 月 日	発行官庁	
	(漢字)	生年月日	西暦	年 月 日生	
	(ローマ字)	旅券番号	発行年月日 19 年 月 日	発行官庁	
	(漢字)	生年月日	西暦	年 月 日生	
	(ローマ字)	旅券番号	発行年月日 19 年 月 日	発行官庁	
	(漢字)	生年月日	西暦	年 月 日生	
	(ローマ字)	旅券番号	発行年月日 19 年 月 日	発行官庁	
	(漢字)	生年月日	西暦	年 月 日生	

用紙の大きさはA4

上記のとおり届出ます。

西暦 19 年 月 日

在

大使
 総領事 殿
 領事

届出人
 署名 _____

注意事項

- 渡航先に3月以上滞在しようとする人は、旅券法第16条により、到着後遅滞なく、この在留届をその地を管轄する在外公館又は最寄りの公館に提出しなければなりません。(郵送でも差しつかえありません。) 緊急の場合に在外公館からの連絡や保護を受けるのに必要です。
- 住所又は居所を変更したとき、その他の届出事項に変更を生じたとき及び在留地を去る(一時的な旅行を除く)ときは、その旨を届出てください。
- 国際結婚している方は、先ず戸籍名を記入し、あわせて婚姻後に称しているその国の慣行上の氏名を括弧に入れて下さい。
- 「本籍地」「日本国内の連絡先」が異なる方は同居家族に含めず、独立して在留届を提出して下さい。また、同居家族が書き切れないときは、裏面の在外公館記載欄を適宜利用して下さい。
- (*) 欄は該当事項を○で囲んで下さい。

アジア経済研究所：「インドネシア政変に関するトピックレポート」用原稿

第6章 ハビビ新体制の特徴

松井和久

1998年5月21日、ハビビは副大統領就任からわずか2ヵ月でインドネシア共和国第3代大統領に就任した。緊張した面持ちの副大統領就任挨拶のときとは違い、大統領就任式でのハビビの顔は、急転直下の出来事とは思えないほど落ち着いて自信に満ちていた。

ハビビを形容する言葉は多い。最も一般的なのは科学技術に明るいテクノロジスト、「技術屋」というものである。しかしここ数十年のハビビは、政権内外に自分のグループを形成し、政治の動きを自らに有利な方向へ向かわせようと影響力を行使してきた側面がある。そのためには、前大統領スハルトの威を借ることも度々だった。スハルトの忠実な部下でありながら、「政治家」ハビビが次期大統領職への野心を持っていたことは想像に難くない。

1. ハビビ大統領誕生までの軌跡

●スハルトの「養子」

ハビビは1936年6月25日、ゴロンタロ（現在の北スラウェシ州第二の都市）出身のプギス人の父親と、ジョクジャカルタ出身のジャワ人の母親との間で、スラウェシ島南部の港町パレパレ（現在の南スラウェシ州第二の都市）に生まれた。8人兄弟の4番目（長男）である。1948年、ハビビ一家はマカッサル（現在のウジュンパンダン）に転居、すぐ近くに前大統領スハルトが当時司令官を務める共和国軍マタラム師団があった。

1950年9月3日、ハビビの父親が礼拝中に心臓発作を起こし、ハビビ一家はマタラム師団に医師の派遣を要請、師団長スハルトが医師とともに駆けつけたが、かいたく父親は死去した。このときハビビ少年14歳、スハルトとの初めての出会いだった。

ハビビはその後、西ジャワのバンドンに送られて高校教育を受け、バンドン工科大学に進むが6ヶ月在籍ただけで中退し、1955年に西ドイツへ留学、アーヘン工科大学で航空工学を学ぶ。1960年、ハビビは技師（インシニユール）の学位を、1965年には博士号を得る。ハビビはハンブルグの航空機技術会社HFB社に入り、続いてHFBの合併後のメッサーシュミット社に移り、旅客機開発部門でエアバス製造などに携わった後、1974年に同社の技術応用担当副社長に就任した。

このとき、インドネシアではスカルノの旧秩序からすでにスハルトの新秩序へ移っており、七〇年代初めの石油ブームで財政収入が増加、国産化指向が高まっていた。スハルトは1974年、国営石油公社プルタミナのイブヌ・ストウォ総裁を西ドイツに派遣し、ハビビをインドネシアに呼び戻した。帰国後のハビビはプルタミナ総裁顧問、プルタミナ応用・航空技術局長などを経て、1976年に新設された国営航空機製造会社（IPTN）の社長に就任する。そして1978年から20年間、科学技術担当国務大臣を

務めた。

このように、ハビビのこれまでの人生にとって、スハルトの存在は極めて重要である。ハビビの父親を看取ったのを契機に、ハビビが西ドイツに留学できたこと、アーヘン工科大学卒業後すぐに帰国しなかったこと、「国家の中の国家」とも称されたプルタミナの総裁を介してまで1974年に帰国させられたこと、などの裏にスハルトの意向を読み取ることはそう難しくはない。スハルトはハビビをいわば「養子」のように可愛がってきたのである。

●エコノミストとの対立

開発のテンポを加速させたいインドネシアにとっては、通常の消費財の輸入代替生産とともに、同時並行的に先端技術分野の国内生産も行ないつつ、必要な技術の移転・習得を図ろうとする戦略が採用されてきた。この戦略は、最新の技術を導入してその後方連関効果を期待する「ジャンプ・アップ」方式の考え方であり、航空機国産化を手がけたハビビがそれを提唱する中心人物であった。

一方、六〇年代半ばにスハルトの「新秩序」体制のもとで経済再建に取り組んできたエコノミスト・グループは、コスト面を重視した資源の最適配分やマクロ経済政策を最重要視し、ハビビの考え方を「資源の浪費につながる」として厳しく批判してきた。

インドネシアの経済政策の重心は、その時々々の経済環境に応じて、上記二つの考え方の間を揺れ動く傾向を持っていた。航空機の国産化は七〇年代の石油ブームによる潤沢な財政資金があって実現したものであり、経済の悪化に伴う緊縮財政下では、エコノミストのマクロ経済安定化政策が中心にならざるをえない。

しかし、航空機産業やその他の戦略産業は、次第にハビビらのグループの一種の権益となっていく。ハビビは1989年には戦略産業に属する国営企業10社（IPTNを含む）を新設の戦略産業管理庁（BPIS）の傘下に置き、国営企業改革の対象外とすることに成功した。ハビビの唱えてきた航空機国産化は、遠隔地での離発着が容易な小型プロペラ旅客機の製造から約100人乗りの中型ジェット旅客機の開発へと進んでいる。このジェット機開発の責任者はハビビの長男イルハムだが、当然のことながら、エコノミストからの批判を受けている。

●イスラム知識人連合（ICMI）の設立

テクノロジスト、「技術屋」と見られてきたハビビが政治的野心を持ち始めたのはいつ頃からだろうか。八〇年代後半、経済は規制緩和政策を受けて自由化が進み、スハルト親族を含む多数の民間企業グループが形成された。政治の面では「開放」が合言葉となり、政治への国軍の関与の抑制などが議論されていた。軍人主導から文民主導への移行も盛んに議論された。労働争議や土地問題など政府への異議申立て行動が頻発していた。国軍の中では、それまで主流を担ってきたムルダニ国軍司令官（当時）らの情報将校グループの影響力が低下していた。

こうした政治・経済の自由化のなかで、分配の公正を求める声がとくにイスラム勢力を中心に現われてきた。また、軍との関係では、1984年のタンジュンプリオク暴動をめぐる国軍の対応への一部イスラム・グループからの反発も出ていた。政治経済の自由化や国軍のセキュラー化への反発が、1990年にイスラム知識人連合（ICMI）の設立を促す背景となっていた。そして、そのICMIは様々なイスラム勢力の様々な思

惑を体現する装置として、権力中枢と結びつくような形態が指向された。

一方、ハビビにとっては、経済自由化・国営企業改革の波のなかで、航空機製造を含む戦略産業をBPIS傘下で保持し続けるかが課題であった。ハビビが戦略産業を握ったということは、国軍への武器・兵器の供給チャンネルを握ったということでもあった。

以上のような状況で、様々な思惑を持つ在野のイスラム勢力と戦略産業を守るための支持基盤の欲しいハビビとの接点が生まれた。イスラム勢力はICMI初代総裁としてスハルトと極めて近いハビビを推薦し、ハビビはこれを受諾したのである。ハビビの政治的野心は、この頃から強くなっていったと推察される。

1990年12月に発足したICMIには様々な知識人が参集した。最高顧問にスハルトを迎え、ハビビICMI総裁のもとに現職閣僚および閣僚経験者、大学教授、省庁の高級役人、ムハマディアなど有力宗教団体の幹部、野党指導者、プリプミの新興実業家、NGO関係者など多種多彩な知識人が会員となった。注目すべきは、八〇年代半ばまで反政府的な言動を繰り返してきた人物やかつての学生運動のリーダーなどもICMIに入ってきたことである。文字どおり、ICMIは「イスラム知識人」の多くを網羅する一大組織となった。一年後には各州や海外にも支部が作られた。とくに地方では、知識人でICMIに入らないのは許されないかのような雰囲気さえあった。しかし、国内最大のイスラム組織ナフダトゥール・ウラマ(NU)のワヒド議長はICMIに距離を置いた。ICMIは知識人の団体であり、特定の政治活動は行なわないことが表明されている。しかし、NUのワヒド議長や退役軍人などからはICMIの政治化が常に指摘され続けている。

●政治的発言力の増加

実際、ICMIの急速な発展によって、ハビビの政治的発言力は日増しに高まっていく。1992年の総選挙で政府与党ゴルカルは、退役軍人出身のワホノ総裁のもとで七割近い得票を確保して大勝したものの、前回を下回る得票率となり、初代大統領スカルノの長女メガワティ率いる民主党の躍進を許してしまう。このとき、ゴルカル内部でワホノ総裁の責任が問われたが、そのワホノ批判の急先鋒の一人がハビビだった。1993年1月、ハビビはゴルカル顧問会議常任議長となり、同年3月の正副大統領選出および10月のゴルカル幹部改選で重要な役割を果たすことになる。

1993年3月の国民協議会の焦点は副大統領にあった。ゴルカルから何人かの候補者が挙げられ、ハビビとトリ・ストリスノ国軍司令官の二人が有力視された。ゴルカル幹部会での選考投票ではハビビがトリ・ストリスノを抑えていた。しかし、これまでゴルカルの候補者に同調してきた国軍が、ゴルカルとの協議抜きに先手を打ってトリ・ストリスノを副大統領候補に指名した。国軍はハビビの副大統領就任を嫌っていたからである。結果は、トリ・ストリスノが副大統領に選出され、ハビビは涙を飲んだ。

しかし、ハビビは実を取る。第六次開発内閣の閣僚には、自らが総裁を務めるICMI出身者を大量に入閣させ、エコノミストや軍出身者を排除した。実質的にはハビビ内閣の様相を呈した。ハビビの反撃はこれで終わらなかった。戦略産業を握るハビビは、国軍の人事にも介入し始め、国軍司令官には西ドイツで一緒だったフェイサル・タンジュンを置いた。国軍内部ではイスラムを指向するグループが力を持ち始め、ムルダニ元国軍司令官の息のかかった将校やハビビの副大統領就任を阻止した将校などを国軍幹部から一掃した。

1994年6月、週刊誌「テンポ」は旧東ドイツの戦艦購入汚職を問題にし、その責任者であるハビビを批判する記事を掲載した。ハビビは「スハルトの命令で行なった」と大統領スハルトを盾に疑惑を否定、スハルトもハビビを擁護し、「テンポ」は発禁となった。こうしてハビビは、いつのまにか地元マスコミから「スーパー・ミニスター」とか「モンスター」とか呼ばれる存在となっていた。

ハビビは、ICMIに距離を置くNUのワヒド議長の取り込みを何度も試みるが、失敗に終わる。インドネシア最大のイスラム組織でジャワの農村に強い基盤を持つNUを取り込めば、ハビビのイスラム組織の基盤は完全なものになる。1996年頃からNU会員を巻き込んだ暴動事件がジャワ島各地で相次いで起こり、ワヒド議長は「NUの解体を狙った策謀」との見解を表明した。実際、正誤は確認できないが、ICMIに近いイスラム組織が暴動を各地で扇動したという噂もあった。

この間、ハビビは戦略産業に留まらず、原子力発電、ジャカルタの地下鉄工事、国民車生産など様々な分野に入り込もうとした。このうち、国民車については、自らが長官を務める技術応用評価庁(BPPT)が中心となって1000CCの燃費のよい小型車の開発を指向したが、スハルト三男のトミーの「ティモール」が優先され、日の目を見なかった。

ハビビの存在は徐々にスハルトの親族にとって障害に映ってきたのかもしれない。1996年後半からハビビは政治の表舞台から影を潜め、代わってスハルトの長女トゥトゥが前面に出てくる。ゴルカル幹部会で漁船の輸入問題が話し合われた際、あくまで国産船の使用を唱えるハビビをトゥトゥが一喝したと伝えられている。

●副大統領そして大統領への道

しかし再びチャンスは巡ってくる。1998年1月、ハビビは5年前と同じく政府与党ゴルカルの顧問会議常任議長となり、正副大統領候補者選定に重要な役割を果たす。5年前の失敗を逆手にとって、ゴルカルは1月時点で副大統領候補としてハビビを示唆していた。そして2月中旬までに他の会派もすべて副大統領候補にハビビを推し、国軍も最後は折れる。こうして、3月の国民協議会でハビビは念願の副大統領に就任したわけである。

副大統領に就任して以来、ハビビは「スハルトが引退しても何も問題は起こらない」と度々述べ、自信を示してきた。第七次開発内閣へのICMI出身者の入閣が阻止されたことから、ICMI幹部のなかには公然と政府批判を始める者も出てきた。ハビビはそうしたICMI幹部の発言を「ICMIを代表しているわけではない」と評し、ハビビとICMIとの間に距離が現われたような印象すらあった。ハビビは彼らを副大統領特別顧問として吸収した(その中にはハビビ内閣で入閣した者も少なくない)。

また、スハルト退陣を求める学生運動は各大学の急ごしらえ組織が大学横断的に繋がっていく形で拡大し、従来の大学横断的組織の影は薄かった。ICMIと関係の深いイスラム学生連盟(HMI)やムハマディア青年組織は学生運動の前半ではそうした急ごしらえ運動体と一線を画して動いていたが、スハルト退陣の最終局面の国会・国民協議会議事堂占拠では、かなり前面に出てきていた。

憲法第8条の規定に従えば、副大統領が大統領に就任するわけだから、ハビビは慌てる必要は全くなかった。待つだけだった。しかし18日のハルモコ国会・国民協議会議長のスハルトへの引退要求の後、19日のスハルト演説でハビビの職務能力への不信感

が表明されると、ハビビはスハルトに会って強く抗議し、引退を迫ったと言われる。20日に再度スハルトに会った際、スハルトは「23日に合憲的に引退する」と表明、ハビビはすぐに閣僚を私邸に呼び集め今後の対応を協議、その直後に国家官房長官からスハルトの即時辞任の意向が伝えられた。ハビビは21日早朝にスハルトに会いたいと国家官房長官に伝えたが、謝絶された。ハビビはそれ以降、スハルトと口をきいていない。ハビビ大統領は、最後の場面で「養父」であったスハルトとの厳しい緊張のなかで誕生したのである。

2. ハビビ新政権の特徴

5月22日に発足したハビビ新政権は「開発改革内閣」と名づけられた。国民協議会の場を経ない大統領職委譲であったため、副大統領は不在である。この新政権の特徴を閣僚の顔ぶれ、国軍との関係、打ち出された政策の三点から眺めてみる。

●内閣の顔ぶれ

開発改革内閣という刷新をイメージする名称とは裏腹に、32人の閣僚のうち19人が3月に組閣された第七次開発内閣の閣僚として名を連ねていたメンバーである。まず、4人の調整大臣はすべて留任した。外務、保健、運輸、鉱業・エネルギー、移住、法務、公共事業、女性の役割、青年・スポーツ、国営企業の各大臣または国務大臣は留任した。なお、第七次開発内閣で調整大臣が兼務していた国家開発企画庁（バペナス）や家族計画庁の長官職が分離されたため、閣僚ポストは増加している。

さらに、IMF合意にある中銀の独立性確保のため、中銀総裁職を内閣構成メンバーから外した。IMFとの交渉に当る経済閣僚は、ギナンジャール経済調整大臣を留任させたほか、実際の交渉に当たってきた実務派の官庁エコノミストを大蔵大臣と国家開発企画庁（バペナス）長官に当てた。IMFや世銀は「経済閣僚のラインナップはかつてないほど充実した」と評している。しかし、入閣を要請されたインドネシア大学経済学部長のアンワル・ナスティオン教授などは入閣を固辞した。

開発改革内閣のもう一つの特徴は、第七次開発内閣の入閣候補で入閣できなかった人物が入閣していることである。協同組合大臣のアディ・サソノは第七次開発内閣の内閣官房長官で入閣が確実視されていたが、最終的には入閣できなかった。州知事出身者の二人、すなわちバリ州前知事のイダ・バグス・オカ家族計画庁長官と西スマトラ州前知事のハサン・バスリ・ドゥリン土地庁長官もまたもともと第七次開発内閣の入閣候補だった。ただし、この州知事出身者二名についてはネポティズムや汚職の嫌疑がかけられており、彼らの地元では辞任を要求する学生らの連日のデモが続いた。

開発改革内閣には、野党からも入閣者が出た。開発統一党（PPP）は食糧担当国務大臣と投資調整庁長官の二つの閣僚ポストを、またスルヤディ派民主党（PDI）からは環境担当国務大臣のポストを、それぞれ占めた。PPPもPDIも従来から内閣への入閣を強く求めており、第七次開発内閣でも要求したが認められなかった。今回、ハルモコをはじめ国会幹部が各党派一致してスハルト辞任を要求したことを考えると、一種の論功褒賞的側面があったことは否めまい。

そして、ハビビを支えてきたICMI出身者が多数入閣した。PPPから入閣したシ

ヤフディン食糧担当国務大臣は1997年半ばに「ハビビが副大統領候補にふさわしい」と言って注目を集めた人物であり、ICMI幹部である。確認できるだけでも経済調整大臣、協同組合大臣、農業大臣、林業・農園大臣、宗教大臣、教育文化大臣、女性の役割担当国務大臣、食糧担当国務大臣などはICMI出身者である。加えて、商工大臣、運輸大臣は昔からハビビの右腕として技術応用評価庁などで働いてきた側近である。

●国軍との関係

軍人出身者では、ウィラントが国防治安大臣と国軍司令官を兼任し、国軍を十分に掌握できる立場にいる。新政権発足前までは、ウィラントの兼任がなくなり、実質的な権限を持たない国防治安大臣に専念するのではないかと見られていた。彼以外の軍人出身者では、政治・治安調整大臣、内務大臣、情報大臣の三人はかねてから国軍のなかでハビビに近いと言われてきた人物であり、九〇年代前半のハビビの政治的発言力が強まる頃に国軍司令官や政治社会担当参謀長などの要職に就いていた。移住大臣も軍人出身者だが、ジャカルタ陸軍区司令官を辞めた後は開発総監などの行政職に就いている。

ところで、ハビビ政権が安定するための課題は、国軍といかに良好な関係を保つかである。かつて、ハビビは国軍によって副大統領就任を阻止されたことがある。戦略産業を握り、武器や兵器の購入に介入するハビビは、国軍にとっては難しい存在であった。

その意味で、ウィラントに国防治安大臣と国軍司令官を兼任させたのは賢明な措置であった。スハルト辞任の前後で国軍内は大きく二派に割れていたといわれる。ウィラント支持派とスハルトの娘婿であるプラボウォ陸軍戦略予備軍（コストラッド）司令官派である。とくに後者が活動家の誘拐、トリサクティ大学学生の狙撃、メダンやジャカルタでの暴動に関わっていたと巷では信じられている。プラボウォは、暴動による混乱を自ら收拾し、国軍司令官であるウィラントの責任を問い詰めて彼の一派を失脚させ、スハルト辞任の場合には自らが大統領になることを以前から考えていたとも噂されている。プラボウォには子飼いの青年グループがいくつかあり、彼らが反華人感情を煽るような集会やデモを仕掛けていたとの情報もある。今回のジャカルタ暴動後、ジャカルタ首都圏を抑えている部隊はプラボウォ派であり、ウィラント派は海兵隊をジャカルタに大量に投入して均衡を図ったとも言われる。

ウィラントに対抗していたプラボウォがコストラッド司令官から自分の部隊を持たない国軍幕僚学校校長（西ジャワ州バンドンに立地）に異動したことで、ウィラントの部隊とプラボウォの部隊が衝突する惨事は当面避けられる見通しである。しかし、プラボウォは今回の人事異動に対してひどく立腹したといわれ、自分の部隊を引き連れて5月22日深夜にハビビの私邸を取り囲んだという情報もある。とくにジャカルタ市民は、トリサクティ大学学生銃撃事件を裁く軍法会議との関係で、依然として国軍内二派の衝突の恐怖を感じている。しかし、ウィラントが国軍内を十分に掌握することができれば、差し当たりハビビ政権は国軍との関係に頭を悩ませることはないものと思われる。

問題は、ハビビ政権の国軍との関係がウィラント一人の行動如何に左右される面が大きいことである。今後のハビビ政権は「文民」のイメージを前面に出し、民主化を進めるような様々な政策転換を打ち出してこよう。おそらく、その過程で国軍が治安機能と政治社会機能を持つという「国軍の二重機能」の問題が重要なテーマとして議論されていくだろう。事実、国軍内部でも従来の二重機能を見直し、政治への介入を減らす方向が模索されつつあるが、ハビビ新政権の打ち出す政策が国軍の存在意義や基本的な権益

に抵触するような事態に国軍が我慢できなくなった場合、あるいは経済危機がより深刻化してハビビ政権が効果的な手段をとれなくなった場合、国軍がハビビ政権を見限る可能性はありえる。逆に言えば、国軍が手を引けばハビビ政権は容易に崩壊しうる。ウィラントはいつでもハビビ政権を見限って自らが大統領職につけるだけの力を持っているのである。それゆえに、これまで国軍と対立することの多かったハビビは、国軍の支援に寄りかかっていかなければ立ち行かないのである。

●打ち出された政策

ハビビ政権は充足して間もなく、スハルト時代にはタブーと考えられていたような政策転換を矢継ぎ早に行なってきた。それは政治犯の釈放に始まり、非合法労働組合連合体の合法化、出版許可制の廃止(発禁措置の撤廃)、ネポティズムの疑いのある国会議員・国民協議会議員への辞職推奨、公務員のゴルカル支持の見直し、政党設立自由化の方向、学校でのパンチャシラ徹底化教育(P4)の廃止、国家反逆罪の見直し意向の表明など、これまでの政治状況から見れば画期的な政策転換である。こうした抜本的な改革政策がスハルト時代の内閣のメンバーとほぼ同じメンバーによって行われていることが驚きである。すなわち、彼ら閣僚は大統領の補佐にすぎず、大統領の意向が変われば閣僚の対応も変わるということなのかもしれない。

しかし、ハビビの過去の言動や行動を知る人々は、こうした政策転換をむしろ政治的ポーズと見ており、ハビビの政治的野心を依然として警戒している。ハビビにとって重要なのは、「スハルトの子飼い」という内外のイメージを払拭することであり、自らのスタイルを作らなければ政治生命が絶たれてしまうからである。ハビビは大統領に就任してすぐ、率先して実弟をバタム開発公団総裁から辞任させたり、長男イルハムを技術応用評価庁の局長ポストから外し、ネポティズムに反対する姿勢をとっている。しかし、ハビビの親族ビジネスへの批判に対しては、「ネポティズムを再定義する必要がある」と述べて追及をかわしている。また、彼の主導してきた原子力発電、ジャカルタ地下鉄建設、ジェット機開発などについて経済危機下での見直し、再検討といった話は一切出していない。

ハビビは「自分は明らかにスハルトとは違う」というメッセージを国内外に懸命に送っている。ハビビが本来的にスハルトの治安維持政策を全否定するかのような政策志向を持っていたというよりは、むしろ自らのイメージ転換がまず必要という観点が強いと見られる。もしそうであるならば、ハビビのイメージ転換が彼の大統領としての権力を維持するための手段としてではなく、本当にイメージだけでなく自分自身の考え方を変えなくてはならなくさせるような国内外からの働きかけが求められる。現在の経済・政治危機を乗り越えるためには、ハビビ大統領の真摯な自己改革努力が必要なのである。

3. ハビビ新政権の今後の行方

前述の通り、ハビビに求められているのは自身の政治的野心を満たすためにポーズをとることではなく、大統領としての自分自身を変革することである。過去のハビビのイメージを完全に払拭してはじめて、ハビビは敬愛される大統領として人々の記憶に残ることになるであろう。

これまでのハビビの政治的発言力が拡大してきた過程から判断すると、ハビビ新政権の今後をみていくポイントとしては、(1) 国内のイスラム色や民族主義感情がどれだけ強まっていくか、(2) ハビビ自身の権益である戦略産業や親族ビジネスをどれだけ整理できるか、の二点がとくに重要と思われる。

ハビビの周辺には「イスラム」を錦の御旗に反華人感情を煽ってきたいくつかのグループが存在すると見られる。依然ICMI総裁でもあるハビビが「経済的弱者に配慮する」として、イスラム教徒やプリブミを優先する政策を採るであろうことは容易に想像できる。弱者に配慮した政策自体はもちろん重要であるが、それらグループは「イスラム」をとくに強調する傾向が強かった。ハビビの下でインドネシアがイスラム国家化する懸念を抱く者もいる。こうしたイスラム色が必要以上に強まるならば、華人実業家らが海外に逃避させた二千兆ルピアに上るとも言われる資金がインドネシアに還流する保証はない。

また、これとの関連で、それらグループがプラボウォの子飼いの青年グループとともに「イスラム」を前面に掲げながら、様々な場で示威行動を起こす可能性が考えられる。実際、彼らが現在行なっているネポティズム糾弾運動では、「イスラム」の名の下に特定人物の辞任を強要する動きも見受けられる。政敵を倒すためにネポティズム糾弾が利用される恐れは大きい。仮に、ハビビ新政権がこうしたグループを使って非イスラム教徒の恐怖心を煽りつつ、政敵を追い落とすような行為を続けて政権の安定を保とうとするならば、それは改革を旗印にしているハビビ新政権への一般国民の疑心を益々深めるだけである。さらに、トリサクティ大学学生銃撃事件をめぐる軍法会議の行方をはじめとして、政権にとって好ましくない状況に蓋をしておまかすことはもはや通用しない。そうした古いスタイルの事実隠蔽行為は完全に払拭しなければならない。

次に、ハビビ新政権は、ネポティズム糾弾運動などを進めるにあたって、ハビビ自身の権益や親族ビジネスを含め、いかに例外を作らないかを真摯に考える必要がある。スハルト政権末期は、そうした例外だらけだったといっても過言ではない。例外を作ることが国民の不公正感を増長する結果をもたらす。そうした例外をなくすことなしに、ハビビに対する根強い不信感を払拭することは難しい。

ハビビ新政権の安定度は、ハビビ自身の自制心に大きく依存する。ハビビ政権のアクターは旧来とあまり変化がない。ハビビは自分の息のかかった人物を大量に登用している。ハビビが彼らを使って戦略産業優先政策のような自らの権益を守る政策をとるようになった場合、国民の政権への不満は一気に高まり、新政権の基盤は急速に揺らぐであろう。ハビビ自身が従来のような政治的野心を表面に出さず、自制心を長く保てば保つほど、現在の改革志向への政策転換はより早く進む可能性が高まる。とにかく、ハビビがどこまで自制できるかが新政権の今後をみ見るうえでの最大の注目点である。

また、ハビビ新政権の安定度は基本的に国軍の支持が続くかどうかにもかかっている。ハビビ自身は、文民政権のイメージを前面に出して、民主化の進行を文民化で表現したいと考えている。ハビビがそうした文民化イメージの行き過ぎを意識し、国軍の役割を十分に認識したうえで慎重に政策運営を行なえば、そして国軍が一つにまとまって二重機能の役割の再評価を現実的に行なえば、政権の安定度は高まる。その意味で、国軍を統率するウィラントの役割は極めて重要であり、彼に何かあれば、ハビビ新政権は急速に安定を失うだろう。その意味で、ハビビ新政権の命運は国軍が握っているとも言える。

ハビビが基本的な意味で従来のハビビである限り、表面を「改革」で粉飾したハビビ新政権の実の姿が国民の眼前に現われてくるのは時間の問題である。ハビビ新政権をみる国民の目はハビビの予想以上に厳しく、もはや下手な粉飾でそれをごまかすことはできない。一度最高権力を握ったハビビが新しいハビビに生まれ変わるかどうか。場合によっては、ハビビ新政権は暫定政権ですらなくなる可能性さえ秘めているのである。

〈インドネシア情報が読めるホームページの例〉

- ◇Indonesia Alternative Information
= <http://pweb.sophia.ac.jp/~n-saeki/index.html>
- ◇東ティモール
= <http://www.asahi-net.or.jp/~ak4a-mtn/>
- ◇テンポ・インタラクティブ
= <http://www.tempo.co.id/>
- ◇インサイド・インドネシア
= <http://www.pactok.net/docs/inside/index.htm>
- ◇Indonesia-L
= <http://www.indopubs.com/archives/>

GARUDA'S GUESTS <ガルダの人々：取材先で出会ったお客さま>

タルシウスを見たくて、ここまで来ました。

大森理愛さん(東京・品川)

伊藤久美さん(東京・狛江)



世界でもっとも小さい猿のひとつとして有名な「タルシウス」手のひらサイズのこの小動物に遭いたくて、北スラウエシのタンココ熱帯雨林公園までやってきた。8月8日に到着した二人は、さっそく翌日にはジャングル歩行を実施。ガスがかかり、雷が鳴り響くなか、泥まみれになって歩き続けた。片道3時間、のべ7時間を費して1109mのタンココ山頂を制覇した。途中、念願のタルシウスに何匹も出くわし、悲願達成。「泥にまみれたかがありました」とはリーダー各の伊藤さん。養護学校に勤めている。「今だから、そんなきれいごと言ってますけど、私なんか、もう何度も何度も引き返そうかと思ったことか」。と連れの大森はほやく。二人は、毎夏、南方に向けて“遠征”をする。ジャングルの中だろうと、険しい山だ

だろうと、面白そうな所に足を踏み入れるのが楽しみだという勇ましい女性だ。どちらかという伊藤さんのほうが、リーダーシップを発揮。下痢に悩まされても、平気で強行軍をこなしてしまう強者である。どんどんマイペースに進む伊藤さんを必死で追いかけるのは大森さん。いつも文句を言いながら毎年、夏が来ると伊藤さんについてきてしまう。留守をまもる夫には、申し訳ないと思っているが「今のうちに、二人でいろいろな秘境をまわってみたい」と目を輝かせていた。今回はボルネオからインドネシアに来るとき、ガルダ・インドネシア航空を利用して頂いた。

北スラウェシ州における宗教

川井 雄二

北スラウェシ州には、イスラーム、キリスト教、仏教、ヒンドゥー教の各宗教がある。それぞれの割合は次の通りである。

イスラーム：45.7% キリスト教：53.5% 仏教：0.4% ヒンドゥー教：0.4%

イスラーム

Golontaro 及び Boloaang Mongondow 地方のムスリムは、ムスリム商人が布教したもの。ミナハサ地方のムスリムは、1829年同地に流刑されたディポネゴロやキヤイ・モジョに追隨してきたジャワ人の子孫である。彼らが居住した地は Kampung Jawa Tondano (Jaton) ジャワートンダノ (略してジャトン) 村と呼ばれる。ジャワの風習を残し村は発展していき、1860年に同村に大モスクが建設されるころにはゴロンタロ地方まで影響を与えるに至った。現在、北スラウェシ一帯の行事になっている Hari Raya Ketupat もジャワからきた風習である。

仏教

1819年頃から中国人商人によって伝えられる。

マナド市内にある『Ban Hin Kiong』『Kuan Seng Tay Tee』『Tiang Tan Lie Goan Swee』の3つの仏教寺院が有名である。

毎年旧正月には数千人の中国人が各寺院を中心に盛大な祭礼を催す。獅子舞いや剣舞などの人気行事には、中国人だけでなくマナド人の見物人も多数行列をなす。

ヒンドゥー教

北スラウェシとヒンドゥー教の関係は一見奇妙だが、これは1963年インドネシア政府の政策による移住によるもの。Boloaang Mongondow 地方にバリ人の移住村を作った。

キリスト教

最初の布教は、1563年に Manado Tua 島、Sangihe 島、Talaud 諸島などでポルトガル商人によって行われた。

高名な宣教師と布教開始年及び開始地は以下の通り。

L. Lammers	1822年	Manado
Mullerr	1822年	Kema
G. J. Helendorn	1827年	Manado
J. F. Riedel	1833年	Tondano
J. G. Schwarz	1831年	Lagowan

マナド市を含めミナハサでは全住民の90%近くがキリスト教徒である。プロテスタントが多数派で、カトリックは少ない。プロテスタントは組織や教義内容の違いによって多くの宗派に分かれている。その中、Tomohon に本部がある Gereja Mesahi Injil Minahasa (ミナハサ福音キリスト協会) が最大で、ミナハサのキリスト教徒全体の90%近くを占めている。この組織は頭文字をとってGMIM (ガミン) と通常呼ばれている。

特筆すべきは、キリスト教の中でも独特の教義を持つ ADVENT (アドフェン) である。

一番の特徴は土曜日は休養日であり、絶対に仕事をしてはいけないことである。

この日信徒は全員朝から教会に行き夕方まで信仰に勤しむ。

教典とされるのは『旧約/新約聖書』であるが、解釈の仕方が多少異なる。変わっているのは一般のキリスト教徒にとって最大の祭日であるクリスマスがADVENTの教義ではさほど重要ではないことである。

日常生活にも様々な規定がある。豚、犬、海老、烏賊などは食べてはいけない。珈琲や紅茶もダメ。過度な化粧やネックレス、イヤリングなどの装飾品も禁止。映画館へ行くのも良くない。更に、男女共ADVENT信徒以外との結婚はできない。

Air Mandidi には Universitas Klabat (クラバット大学) があり、これはADVENT信徒の大学であり、当然ながら土曜日には授業がない。教師や生徒はもちろん、一般従業員を含め全てが信徒である。大学を中心に一大ADVENT信徒村が形成されている。

インドネシアにはこのクラバット大学とバンドゥンにある Universitas Advent Indonesia (インドネシア・アドフェン大学) = 通常略してUNAI (ウナイ) と呼ばれる = の2つしかADVENT系の大学はない。

北スラウェシにいる民族は、言語、風俗、風習などにより、主に下記の4つのグループに分類されます。

- 1 BOLAANG MONGNDOW
- 2 HULONTALO (GORONTALO)
- 3 SANGIHE TALAUD
- 4 MINAHASA

各グループの頭文字をとり、『BOHUSAMI』と呼ばれています。マナドから空港へ向かう道に『BOHUSAMI CITY HOTEL』という名のホテルもあります。

インドネシアではスンダと並んでマナドは美人の産地とされていますが（日本でいう京美人、秋田美人の類）本来民族学的にはマナド人という人種は存在しません。通常我々がマナド人と呼んでいる人種は、ミナハサ民族のことです。これは、ミナンカバウ民族が一般にパダン人と呼ばれるのと同じケースです。しかし、中にはマナド人と呼ばれるのを嫌がり、『あなたはマナド人ですか』と尋ねた時、『いいえ、私はミナハサ人です』と言う人も少なくありません。

マナドという昔から《3B》が有名ですが、3Bとは下記のものです。

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1. <u>BUNAKEN</u> | ダイビングで世界的に有名なブナケン島。 |
| 2. <u>BUBUR</u> MANADO (マナドの粥) | 対句になっている |
| 3. <u>BIBIR</u> MANADO (マナドの唇) | |

ブブル・マナドという粥は、はっきり言ってお勧めできません。粥を食べるといふよりも、苦い漢方薬を飲んでいるような気分です。ブブル（粥）と名がつくものの、中に入っている米は僅かな量です。主な材料は、カンケン、クマンギ、パイヤ・シンコン・蜜柑等5～7種類の葉、トウモロコシ、サツマイモなどです。好みにより黄色の麺を入れることもあります。この粥を通常、海魚の燻製や揚豆腐などと一緒に食べるのです。

しかし、仮にもマナドの名物料理なのですから、話の種に一度試してみるのもよいかもしれません。カワヌア・ホテルのレストランでも食べられますが、地元の人が食べているものと同じものを食べたい人はホテル・ニュークィーンの近くの専門店に行くといいでしょう。（午前中だけの営業なので注意すること）

最近では、上記の3Bの他にもう一つBを加えた《4B》と呼ばれています。

4. BOULEVARD ノフォテル (NOVOTEL)の前の海岸通りの名称。この海岸通りには何も無いのですが、夜になるとカップルやグループでたむろする若者で賑わいます。丁度バリのバイパス通りのングラライ銅像の周辺の様子と似ています。土曜の夜となると更に混雑し、泥酔者も多くなります。

ちなみに空港工事関係者の間では、更にBを加えた《5B》と呼ばれています。

5. BANDARA バンダラ（空港） サム・ラトウランギ空港のこと。

ブナケン国立海中公園

世界に誇る

素晴らしい水中世界

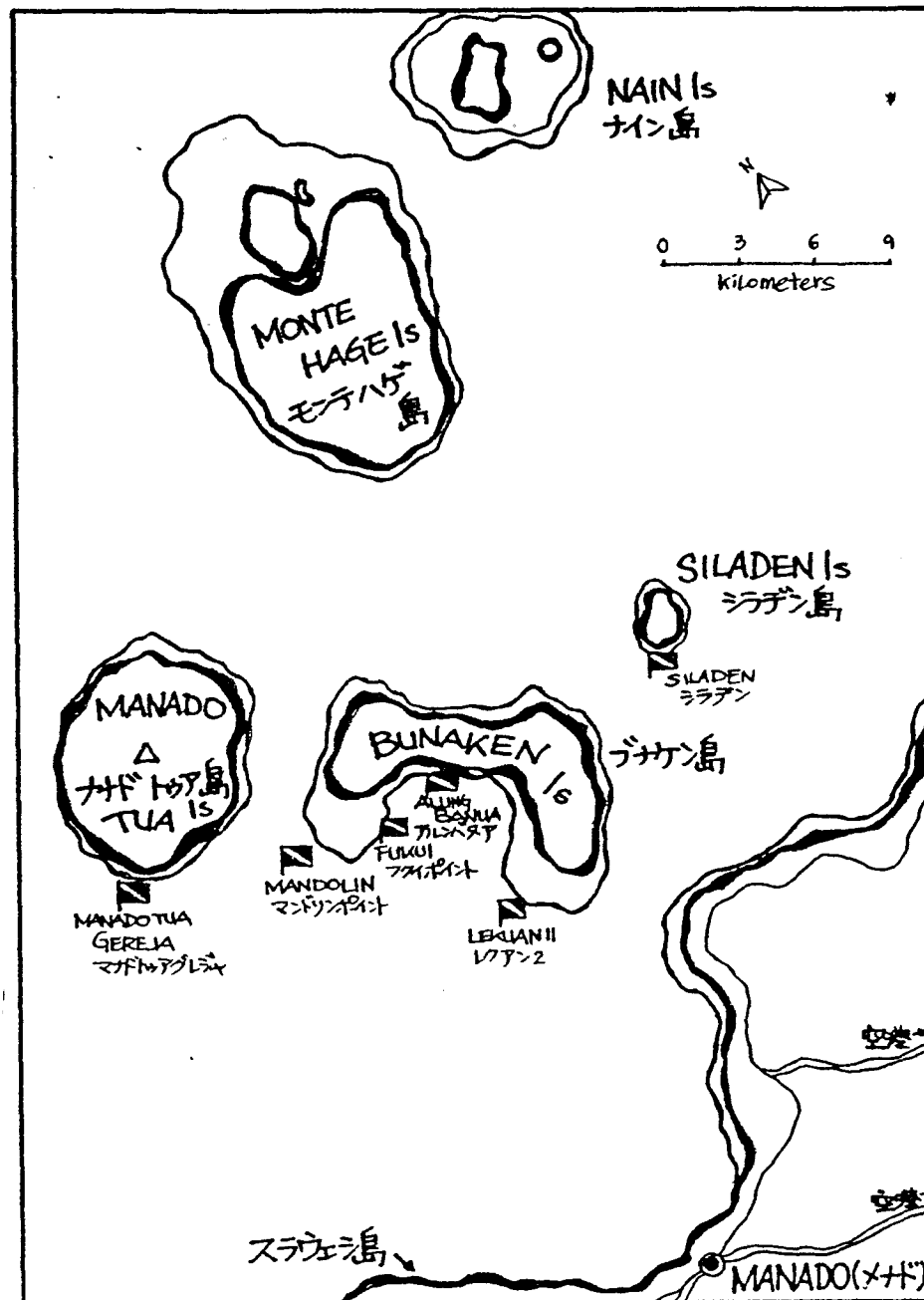
森井まち子

スラウェシ島北、メナドの街より船で約1時間。ブナケン国立海中公園は75,265hの面積を持ち、ブナケン島・メナドトゥア島・シラデン島・モンテハゲ島・ナイン島の5島々から成り立つ。その島周囲には手付かずのサンゴ礁や色彩豊かな魚達の水中世界が広がる。

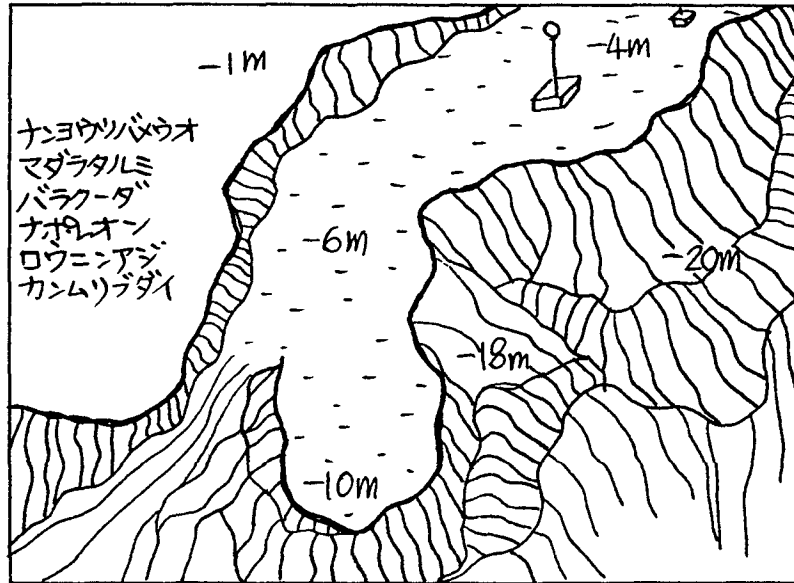
今から約250万年前にスラウェシ島下を通る複雑なマグマの動きにより現フィリピンの一部とニューギニアの一部とが接合して生まれたといわれるスラウェシ島。その形成過程により運ばれた動植物は、独特な進化を遂げ今日にいたる。垂直に落ち込む見事なドロップオフはワールドクラス級でありその壁一面に着くソフトコーラルや美しいサンゴ礁を観ていると長い時間をかけ造り上げた歴史を感じさせる。

年間を通し平均水温は27度～30度と温かく平均透明度は12～25m 生物の種類も豊富であり小さなかわいい生物から大物までじっくり楽しむことができ、カスミチョウチョウウオの大群やムレハタタテダイの群れはどのポイントへ行っても観察する事ができます。

このような素晴らしい水中世界を親に世界各地より訪れる人もここ数年増えている。それと同時にサンゴや生物にかんする保護のことも真剣に考えられるようになりました。この美しい環境をこの先も残して行ってほしいものです。

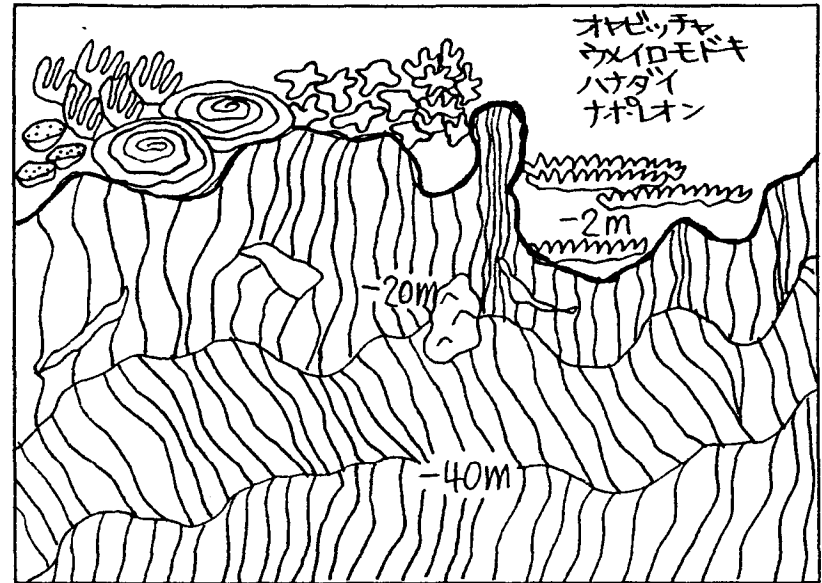


FUKUI PT (フクイポイント)



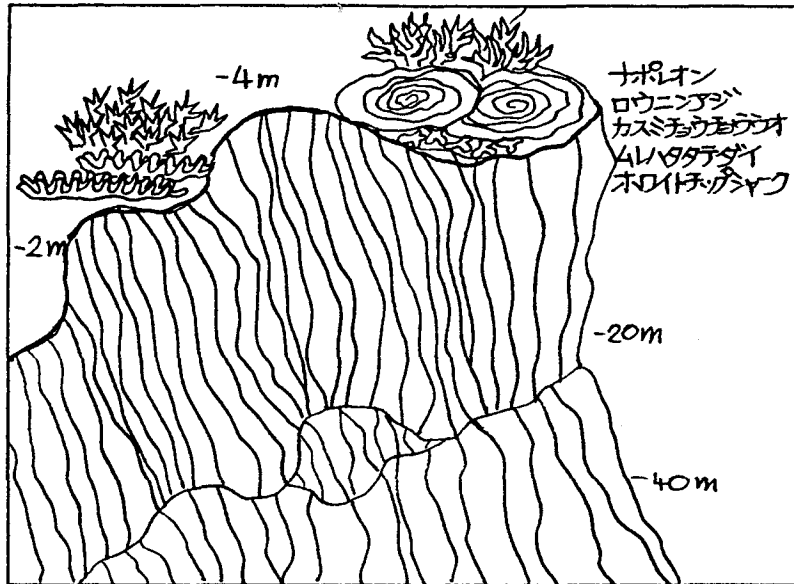
- ☆位置・・・ブナケン島 南西
- ★地形・・・スロープ
- ☆見所・・・浅場ではロウニンアジ、ツバメウオの群れやカンムリブダイ、ナポレオンなどの大小様々な魚達との接近遭遇率が高い。カメラ派ダイバーにはとくにおすすめ。人気の高いポイント。

MANADO TUA GEREJA (メナドトゥアグレジャ)



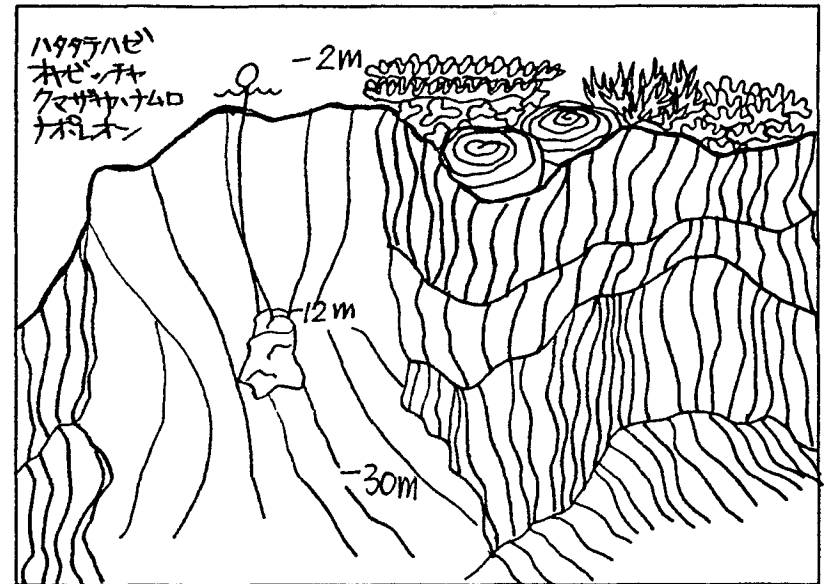
- ☆位置・・・メナドトゥア島 南
- ★地形・・・ドロップオフ
- ☆見所・・・リーフエッジに群れるスズメダイの群れやサンゴ礁が素晴らしい。見事に落ち込むドロップオフには所々にオーバーハング(凸凹)が見られる。ソフトコーラルで埋めつくされたカラフルな壁をじっくり観るのも楽しい。

LEKUAN II (レクアン2)



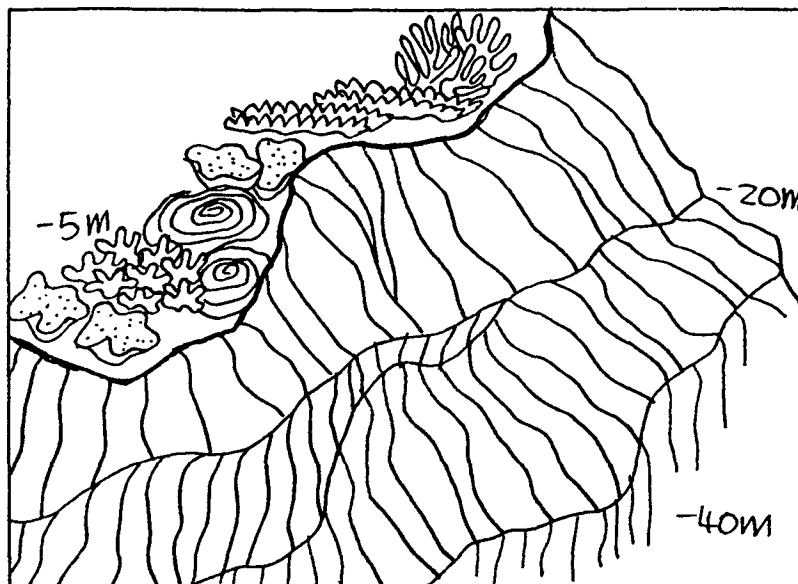
- ☆位置・・・ブナケン島 南
- ★地形・・・ドロップオフ
- ☆見所・・・垂直に落ち込む豪快なドロップオフは、見所満点です。浅瀬には美しいサンゴ礁が広がりスノーケリングにもおすすめ。人気者のナポレオンやロウニンアジに出会えることも。ダイバーにも人気ポイント。

ALUNG BANUA (アルンバナア)



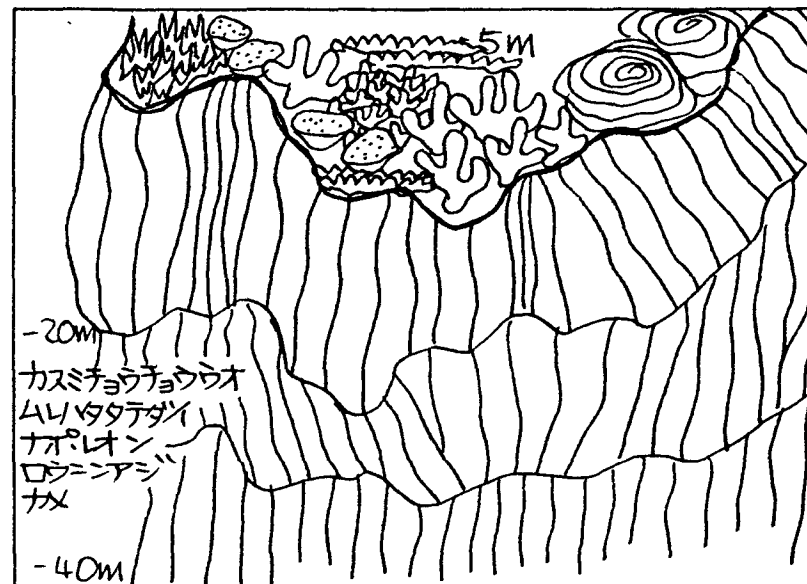
- ☆位置・・・ブナケン島 南西
- ★地形・・・ドロップオフ
- ☆見所・・・いつも穏やかなコンディション。サンゴ礁の周りには、チョウチョウオの仲間達が群れ色鮮やかな魚達でにぎやか。スノーケリング、マクロ派ダイバーにおすすめ

SILADEN (シラデン)



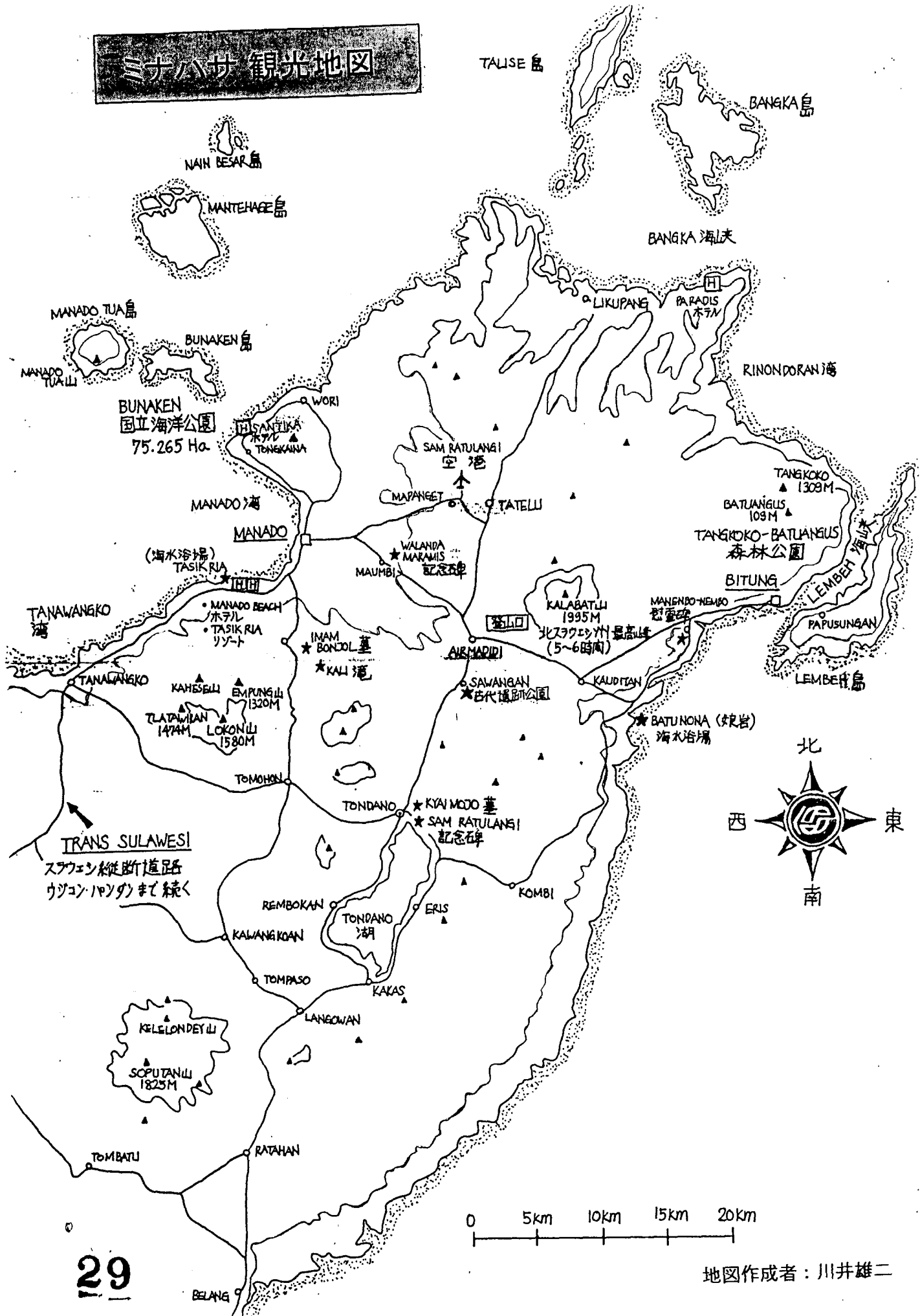
- ☆位置・・・シラデン島 南
- ★地形・・・ドロップオフ
- ☆見所・・・ソフトコーラルやハードコーラルが美しく並びゆっくりと落ちるドロップオフのまわりには、色とりどりの魚達が群れている。サンゴの下をのぞいてみるとスティングレイ(エイ)が寝ていることも。

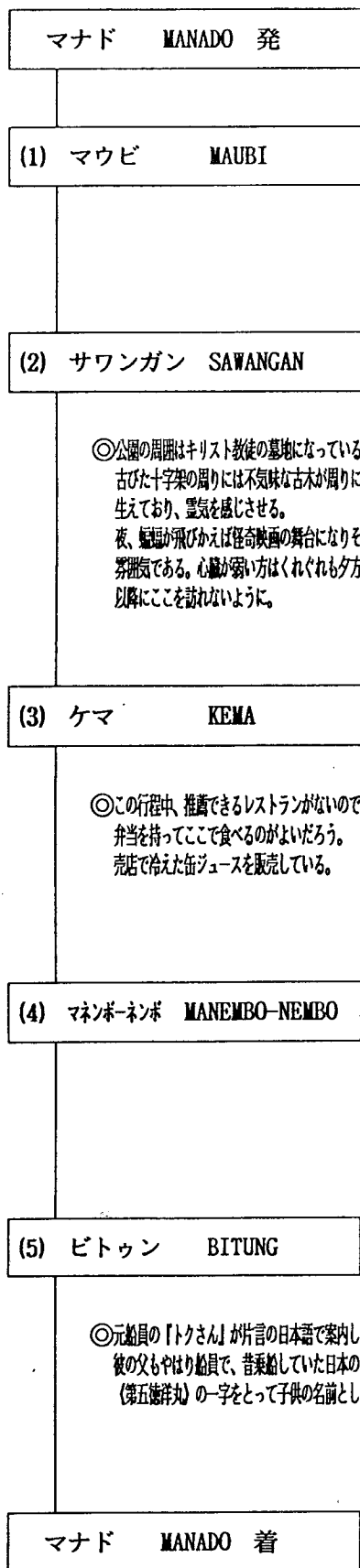
MANDOLIN PT (マンドリンポイント)



- ☆位置・・・ブナケン島 南西
- ★地形・・・ドロップオフ
- ☆見所・・・浅瀬のサンゴ礁はいつも元気いっぱい。チョウチョウウオの仲間やウメイロモドキ達が大きな群れをつくり時には、ロウニンアジやナポレオンがその群れと一緒に泳ぐことも。スノーケリング、ダイバーにもおすすめポイントのひとつです。

ミナハサ 観光地図





◎公園の周囲はキリスト教徒の墓地になっている。古びた十字架の周りには不気味な古木が周りに数本生えており、霊気を感じさせる。夜、蟬鳴が飛びかえば怪奇映画の舞台になりそうな雰囲気である。心臓が弱い方はくれぐれも夕方以降にここを訪れないように。

◎この行程中、推薦できるレストランがないので、弁当を持ってここで食べるのがよいだろう。売店で冷えた缶ジュースを販売している。

◎元船員の「トクさん」が片言の日本語で案内してくれる。彼の父もやはり船員で、昔乗船していた日本の(第五艦隊丸)の一字をとって子供の名前とした。

- ☆ マリア・ワランダ・マラミス (MARIA WALANDA MARAMIS) 記念碑
【女史の業績に関しては『北スラウェシの国家英雄』の項を参照】
1987年3月8日、北スラウェシ州知事 C. J. RANTUNG により建立される。碑には「P I K A T」の標語と主要理事の名前が刻まれている。碑の後方には女史とその夫 YOSEPH の墓がある。
- ☆ サワガン古代遺跡公園 (TAMAN PURBAKALA SAWANGAN)
1977年~78年文化教育大臣 DR. DAOED JOESOEF によって修復される。『ワルガ WARUGA』と呼ばれるミナハサ人の祖先の石棺が144個ある。これらは先史時代に建造されたものと推定される。下部の石の内部には穴がほられてあり、遺体を座った状態で入れるようになっている。これは当時のミナハサ人の信仰に基づく。つまり『胎児は母親の子宮から座った状態で産まれて来て、座った状態により永遠の眠りにつくことができる』と信じられていたのである。石棺の上部には死因、死者の性格、趣味、職業の他、動物や植物などのモチーフが彫刻されている。
- ☆ バトゥ・ノナ・ビーチ (BATU NONA BEACH)
ミナハサ県東海岸にある海水浴場。岬の先端にバトゥ・ノナ(娘岩)と呼ばれる奇怪な岩がある。これは岩を北側から見ると女性の横顔に見えることに由来する。岩には海岸沿いを歩いても行けるが時間がない人は船で行くと良い。料金は1人千ルピアだが定員の10人に達しないと出発しない。チャーター料金は一隻1万ルピア(約30分)沖に出ると海の透明度が良く、船上からでもサンゴ礁や魚群を鑑賞することができる。もちろんシュノーケリングや釣りも楽しめる。
- ☆ 元海軍軍人の慰霊碑。碑にはこう刻まれている。
表: 金真魂 風薫り雲は流れ海碧き南海のこの地君よ永遠に眠れ
裏: 1987年10月15日
元海軍第十四期飛行専修予備学生 元山戦闘機隊建之
小高い丘の上であり、前方は海、左方は戦前より「マナド富士」と呼ばれるクラバット山を見晴らす絶好の景観地である。
- ☆ 漁港付近の TANDURUSA 村の SULISMAN GUMOLUNG 氏が自宅の敷地内に設けた私設小動物園。(看板は無いが地元では有名)
タンココ森林公園に行く時間がない人はここで『タルシウス』を見学することができる。ここで見る動物は以下の通り。
①タルシウス ②アノア ③マレオ ④バビルサ ⑤ランコン
【上記の動物に関しては『北スラウェシの珍獣』の項を参照】
⑥クスクス ⑦カンガルー(イアン・ジャヤ) ⑧駝鳥のような鳥(イアン・ジャヤ)
⑨大蛇、猛毒をもつ緑蛇 ⑩各種鳥類 ⑪鱉 ⑫海亀 ⑬エイ ⑭鮫
【⑫~⑭は、海中にある生け簀の中において引潮になるとよく見える】
入園は無料だが、動物たちの餌代として一人Rp. 5,000-10,000 を寄付するのがマナー。

ミナハサ観光ツアー (2)
トンダノ 7時間コース

マナド MANADO 発

(1) ロタ村 DESA LOTA

(2) カリ村 DESA KALI

◎駐車場から滝までは、かなりきつい行程。
足腰に自信のない方には、残念ながらお勧めできない。

途中通過 ティノール村 DESA TINOOR

トモホン TOMOHONN

(3) トンダノ TONDANO

(4) ジャワ村 KAMPUNG JAWA

キヤイ・モジョ
کیاچاموجو
کیاغاز الی بن کیاچاموجو

(5) レンボケン村 DESA REMBOKEN

◎昼食は URONGO村にあるレストラン
[RM DANAU TONDANO] がお勧め。
レストランは湖上に建てられており、下は生け簀に
なっている。後水魚の料理が中心。トンダノ湖を
眺めながらの食事は格別である。

マナド MANADO 着

☆ イマン・ボンジョール (TUANKU IMAM BONJOL) 墓地 【彼の業績に
関しては『北スラウェシと関係のある国家英雄』の項を参照】
1992年12月、北スラウェシ州有志及び西スマトラ州政府により修復
される。墓の裏手の溪流の中には、彼が好んで礼拝場所とした大石が
ある。従者の一人、アボルススの曾孫にあたるアイヌンおばさんが孫娘
のスリィと2人で墓を管理している。

☆ タパハン・テル滝 (AIR TERJUN TAPAHANN TELU)
イマン・ボンジョールの墓地があるロタ村をさらに奥に向かう。道路の状態が悪いのと急坂が多いため、乗用車よりもジープやキージャンを利用した
方が良いでしょう。途中の景観はバリのUBUD渓谷を連想させる。カリ村
はミナハサ伝統の高床造式の古い家が立ち並び、一見の価値がある。
道路の両端で丁字(クローブ)を干している風景も見られるかもしれない。
駐車場から滝まで石畳の道を往復約1時間の道程。滝は大小2つあり、
大きい方は公称60メートル。(入場料一人 Rp. 750-)

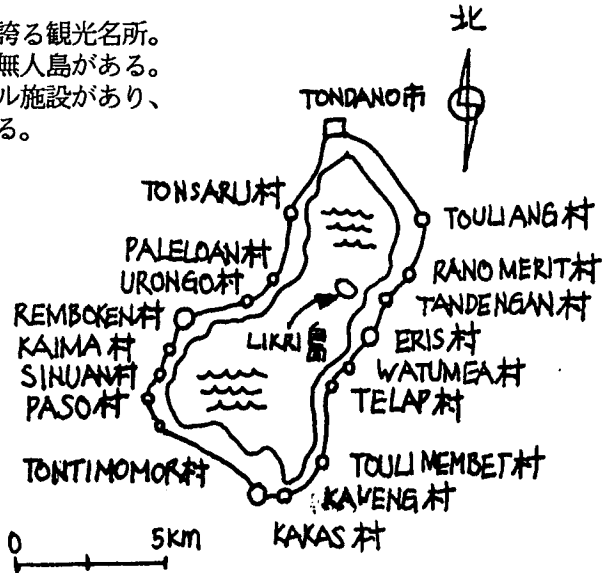
☆ マナド湾とマナド市を一望にできる景観地。『HENG MIEN』『PEMAN-
DANGAN』『VICTORY』などのレストランがあり、夜は夜景を見る客で
賑わう。ここは犬や豚、蝙蝠などを食材にしたミナハサ料理で有名。

☆ トモホン市 (TOMOHON) ミナハサ郡第2の都市。ミナハサ福音教会
(GM I M) の本拠地。教会の数が多い。

☆ トンダノ市 (TONDANO) ミナハサ郡最大の都市。郡庁所在地。
☆ サム・ラトウランギ (SAM RATULANGI) 記念碑
【彼の業績に関しては『北スラウェシの国家英雄』の項を参照】
1987年6月30日、国民協議会(MPR) 副議長、G. H. MANTIN 退役中將に
より公認される。

☆ キヤイ・モジョとその従者たちの墓地。【彼の業績に関しては
『北スラウェシと関係のある国家英雄』の項を参照】
1978年~81年に修復される。1981年2月10日、教育文化省 PROF. DR.
HARYANI SOEBADIO局長により公認される。
キヤイ・モジョに従ってこの地に来た者は63人。(全員男性) その中
には息子のキヤイ・ザリ・ピン・キヤイ・モジョやキヤイ・フカー・ガンなどがある。従者たちは
ミナハサ女性を娶りこの地に定住し、やがて一つの村になった。これ
をジャワ村(KAMPUNG JAWA)といい現在までジャワの風習を守っている。

トンダノ湖はミナハサ人が誇る観光名所。
湖の中にはリクリ島という無人島がある。
レンボケン村には温泉プール施設があり、
釣りやボート遊びも楽しめる。



第5章 事故

1 日常の安全対策（交通事故）

1. 赴任前に実施すべき事項

(1) 赴任地の交通情報の入手

海外事業部が外務省、日本在外企業協会等から入手している交通情報については、必ず閲覧しておくこと。また、次の手順で個人でも入手可能な情報については自分で動いて収集する（能動的に情報に接する癖をつける）こと。

- 1) 外務省邦人保護課に設置されている「海外安全相談センター」（TEL：03-3580-3311 EXT. 2306）に赴任地及び出張が予想される近隣国の最新の治安状況、交通状況について照会すること。
- 2) 最新の情報ではないが基本的な注意事項については、市販の『海外安全ハンドブック』（外務省監修、トラベル・ジャーナル社出版）が代表的であるが、使用されているデータが古い場合は、参考にする程度にとどめて、そのまま鵜呑みにしないこと。
- 3) 上記1) および2) の情報については、社団法人・日本外交協会が実施している「国別・海外安全情報FAXサービス」（FAX：03-3584-3300）で入手可能なので、出発前に目を通しておくこと。
- 4) 次の諸点については、当該事務所より赴任前に入手しておくこと。A～Cは「緊急連絡先リスト」として纏め、家族全員が携帯するようにしておく。D～Fの詳細については、赴任後、現地在留邦人などから引き続き情報を収集すること。
 - A. 日本大使館（総領事館）の電話番号、領事担当者氏名および閉館時の連絡方法
 - B. 治安機関や消防署、医療機関等の所在地および緊急連絡方法
 - C. 主要在留邦人（特に安全対策関係者）の氏名および連絡先
 - D. 市内および郊外の危険地域
 - E. 公共交通機関使用時の注意点
 - F. 現地事情に不慣れな間に陥りやすいトラブル例

(2) 保険

海外旅行傷害保険に付保されている緊急アシスタンス・サービスの内容及び利用方法については事前に十分確認しておくこと。傷害治療・疾病治療を付保していないと、このサービスを受けられないので注意すること。

2. 着任後直ちに行うべき事項

(1) 日本大使館・医務官、領事部への表敬(含む、在留届けの提出)

(2) 日本人会等の安全対策関係者にも適宜必要に応じ表敬するとき。

3. 自動車に関する注意事項

(1) 購入時

1) 自分が目立たないようにするには、目立たない車を選ぶことが大切。現地で一般に乗られている車の中から、出来るだけ頑丈で馬力の強い車を選ぶこと。ただし、人気車種で中古価格の特に高い車種は避けること。後部座席の窓の内側には、カーテンを掛ける、内側から黒フィルムを貼るなど、外から中に乗っている人が分からないようにする。自動車電話が利用可能な場合は、装備しておく。また、車の盗難事件が多い地域では、購入時、到着時に盗難防止装置を取り付けておく事が望ましい。また、次の物が装備されている車を選択すること。

安全ベルト、サイドミラー、エアコン、色付きのウインドガラス、小型無線機、運転手以外の者が後方を確認できるバックミラー、故障の際の修理道具、スペアタイヤ、パンク応急改修資材、牽引ロープ、充電用ケーブル、消火器、応急用医薬品、予備の水、オイル燃料

2) 車の盗難、事故などの全てをカバーする車両対人対物保険に加入すること。

3) 車体に広告宣伝のつもりで企業名や電話番号を書かないこと。

(2) 乗車時

1) 路上に駐車した場合、車に接近する時は直接ドアの所へ入って鍵を差し込むような事をせず、遠くからぐるりと周囲を回

- りながら接近すること。
- 2) 車に乗り込む前に車の外側を一回りしてチェックする。路上に小さな針金や紐が落ちていた場合は、車に細工された可能性が高い。タイヤ周辺および車体下部や排気管を目視点検し、針金、コードその他不審な物がないかチェックすること。エンジン・ルームを点検する際は、ボンネットを一気に開けないこと。少し持ち上げ、異常がないか確認してから全開する。トランク、給油口についても同様。
 - 3) 車に乗り込む際には、窓越しに車の内部を見渡し、何か異常がないか確認すること。
必ず、後部座席に人が隠れていないか確かめる。座席に座ったら、ダッシュ・ボードやシートの下をチェックする。
 - 4) 検査中に異常を感じたら、直ちに検査を止めて車から遠ざかること。
 - 5) 車の整備は入念に、ガソリンは常に満タンに、運行は交通規則を厳守すること。
 - 6) 貴重品、車の登録証類、免許証類スペアキーを車内に放置しないこと。また、車内にスペアキーも置かないこと。
 - 7) 勤務日又は休日には予測可能な行動パターンを避けること(定時の出勤・退社、決まった経路、定期的なレクリエーション・買物などは避ける)。
 - 8) 発進前にブレーキ、タイヤ、警笛、ライト、バッテリー、ガソリン残量等を点検すること。
 - 9) 目的地までの道路事情、途中の警察、病院、軍・政府関係施設等の位置を確認すること。
 - 10) 目的地までのルートとその代替ルートを事前に計画し、長距離運転の際には、最終到着予定などスケジュールを関係者と打ち合わせておくこと。
- (3) 運転時
- 1) 窓を閉め、ドアをロックすることを習慣にすること。ただし、車外の音を聞くため、窓ガラスを少しだけ開けておくこと。
 - 2) 出来るだけ脇道は避け、交通量の多い大通りの中央レーン近くを走ること。
 - 3) 走行中でも、貴重品を外部から見える位置に置かず、運転手が運転中も、新聞を読んだりせず、車外を監視すること。
 - 4) 車間距離を広く保ち、不意の出来事に対応できるようにしておくこと。

- 5) 道順をしばしば変えること。
- 6) ヒッチハイカーなど知らない人は絶対に乗せず、故障した車を発見しても、単独で助けようとはせず、応援を求めること。
- 7) 常に尾行の有無をチェックし、不審者に尾行された場合の対処行動を予め計画しておくこと。
- 8) 一時停車する場合には、直ちに発進できるようにしておくこと。
- 9) 長距離を移動する場合は、夜間を避け、単独行動を避けること。
- 10) 緊急の際、電話を掛けられるように準備をしておくこと。(現地語、現地通貨、電話番号リスト等)
- 11) 気象状況の変化(雪、大雨等)に対する準備をしておくこと。
- 12) 走行中にパンクしても、その場では停車しないこと。襲撃可能性に配慮して、1 km以上走ってから停車する。必ず人通りの多い場所を選んで停車すること。
- 13) 可能な限り、事故時のトラブルを直接かぶらないようにするため、自分では運転せず、なるべく運転手を雇用し、運転させること。
- 14) 万が一、ガンポイント等で強制的に停車させられた場合は、絶対に抵抗しないこと。
- 15) 万一の水没したときのために窓ガラス割り用ハンマーを用意すること。

(4) 駐・停車時

- 1) 車から降りる前に、必ず周囲の状況を観察することを習慣にすること。また、ドアのロックを忘れず、車の中に荷物を放置しないこと。
- 2) 昼・夜を問わず、人目の多い場所に駐車し、人気の少ない場所には駐車しないこと。
照明の当たっている信用のおける有料駐車場を選び、人目のつく所に駐車すること。
- 3) 公共の駐車場を利用するときは、出来るだけ建物に近い所に駐車する。建物から見て死角になっているところには駐車しないこと。
- 4) ビルの地下駐車場は被害多発場所であり、地下駐車場への通路や階段でも注意すること。
- 5) 管理人が居ない駐車場を使用しているときは、出来るだけ駐車場所を変えること、また、駐車場所指定の場合は一層の注

意を払うこと。

- 6) 車に爆弾を仕掛けられないために、車の出入りの時を除いてガレージの扉は閉め、必ず施錠すること。ガレージに入る際は十分に注意し、周囲に人のいないことを確認してから入ること。

こんな交通事故に遭いました。

インドネシアのジャカルタでの事です。約束の場所へ向かうため部長と会社の車で目的地に向かっていました。渋滞が激しくなかなか前に進みません。赤信号で止まっていると急に前の車がバックしてきて私達の乗っている車にぶつかりました。こちらはとまっていたので過失はありません、バックしてぶつかった前の車の100%の過失です。ところが当方の会社の運転手は年寄りで、人は良くて、安全運転なのは良いのですが、このような時は困ります。しばらくすると前から運転手が降りてきて運転手を睨み付けておしまいです。運転手は黙って下をむいてしまいました。安全を考えれば慎重な運転手に越したことはありませんが、事故が発生した時のことを考えると???

日本語で健康情報が得られる主なホームページ

日本語で健康情報が得られるホームページの主なものを、紹介します。カッコ内がアドレス。

① JICA-IFIC

(<http://jica.ific.or.jp>)

国際協力事業団が、海外に赴任する専門家に配る任国情報が「情報箱」の中にある。必要な予防接種、医療水準、日本人がよく受診する医療機関名などが詳しく書かれている。

② 厚生省WHIT

(<http://www.mhw.go.jp>)

「トピックス」の中の健康安全関連情報の項目に、97年7月4日更新の海外渡航者保健情報として掲載してある。検疫所業務管理室が担当しており、各国ごとの必要な予防接種、また、かかりやすい病気について書かれている。

③ 母子保健・家庭保健教育普及グループ

(<http://www.mcfh.co.jp/index.html>)

国別の予防接種のスケジュールなど、「海外での子育て情報」が掲載しており、とくに子供のいる方は必見のページ。

④ マラリア情報ネットワーク

(<http://malaria.himeji-du.ac.jp/IPublic/ITH/index.html>)

渡航にかかわる準備から、最新海外危険情報、世界保健機関(WHO)の「海外旅

行と健康」の日本語版など非常に充実している。

⑤ 在フランス日本大使館医務室

(<http://www.micronet.fr/~imusitu/>)

東南アジア、アフリカなどのフランス人が多く行く地区でのマラリア、予防接種について書かれている。フランスの空港でのマラリア薬入手情報もあり、フランス語圏の旅行ではおおいに役立つ。

⑥ 海外勤務健康管理センターJOHAC

(<http://www.win.or.jp/~johac/index.html>)

労働福祉事業団、海外勤務健康管理センターの概要や、新着情報で海外感染症情報や日本人医師の巡回診療の日程などがわかる。

⑦ AMDA熱帯医療データベース

(<http://www.amda.or.jp/contents/database/db1.html>)

熱帯病に関するデータベース、症状別など検索も出来る。

⑧ 国立感染症研究所感染症情報センター

(<http://www.nih.go.jp/yoken/idsc/index-j.html>)

海外感染症情報として、海外からの感染症情報の大事なものを集めたものやリンク集がある。最新海外感染症情報は、現在1カ月ごとに更新しているが、近く毎週更新の予定。

感染
症防
ぐ分
類と
知識

先日、日本人会の入会申込書中にコメントとして会の行事の一つとして下記のような『書籍交換会』を開催しては如何でしょうかと提案しました。

書籍交換会の実行要領（案）

- ①新書本は2点、文庫本は1点、カバーのない文庫本は2冊で1点として、持参した書籍の点数を計算する。
自分が提供した書籍と同点分の書籍を交換できる。
- ②くじびきで順番を決める。1番の者から順に3点分の書籍を選ぶ。
- ③最後の者が選んだ後、今度は逆順に最後の者から3点分の書籍を選ぶ。
- ④このようにして自分の持ち点がなくなった時点で終了する。
- ⑤個人差があるので冊数には特に制限を設けず、1冊からでも交換できる。

以上のような案を提議したのですが、先日の日本人会総会では1回切りの交換よりも、全員が読めるように各自が書籍を持ち寄り、日本人会の図書室を設置した方が良いとの意見が出されました。

確かに正論ですが、発足したばかりの日本人会としては、残念ながらそこまでの力がないのが実情です。

部屋を借りるにしても、部屋代はおろか人件費光熱費等の経費さえ、僅か30名の年会費からは捻出するのは不可能です。

一方、会員のどなたかの家屋の一部を借りるという案も出されましたが、先日の総会の席上においても提供者が現れませんでした。これには種々の条件が課せられるため実現が非常に困難です。まず会員の便宜を計りマナド市内にあること。少なくとも3～5年は住居を移転しないこと、などです。

弊社の宿舎の一室も図書室として提供したいのは山山ですが、長くとも後1年程しか滞在しないのでその後の移転の事を考えると挙手しかねません。今でさえ場所の提供者がいない状況で、1年後我々がマナドを引き払う時、皆様から提供された多数の書籍やビデオその他の財産の処置に今以上に困ることは明白です。おそらく他の会員の方々も同じ考えかと存じます。

そのため、上記のような『書籍交換会』を提案した次第です。後日開催のご案内を致しますので、この趣旨にご賛同の方は是非ご参加下さい。尚、この件に関しましてご意見ご要望がありましたらお知らせ下さい。

余談ですが、日本人会の図書の保管場所として日系のレストラン、喫茶店などに頼むという方法もあります。会員の家だとどうしても遠慮気味になってしまいますが、これですと利用者はいつでも好きな時に行けます。一方店側としても顧客がつくことになり、相互の利益となる訳です。

店側はビッグ・コミックや週間朝日などの雑誌を日本やOCSなどから取り寄せ、客から閲覧料を取ることも考えられます。（マナドの邦人数では有料にしないと利潤がでない）小生個人としても1冊1万ルピアの閲覧料を支払っても毎週読みに行くでしょう。

川口副会長殿。サイド・ビジネスとして喫茶店経営は如何でしょうか。

命の恩人に会いたい

旧日本軍通訳兵のインドネシア人

消息わからず帰国へ



成田発のキャセイ航空で帰国するアリ・ブギス氏

右記の新聞で紹介されたアリ・ブギス氏は1998年現在も健在です。家業の書店と旅行代理店の業務を息子のアユブ氏に譲ったものの、時折店に出て後人を指導しています。

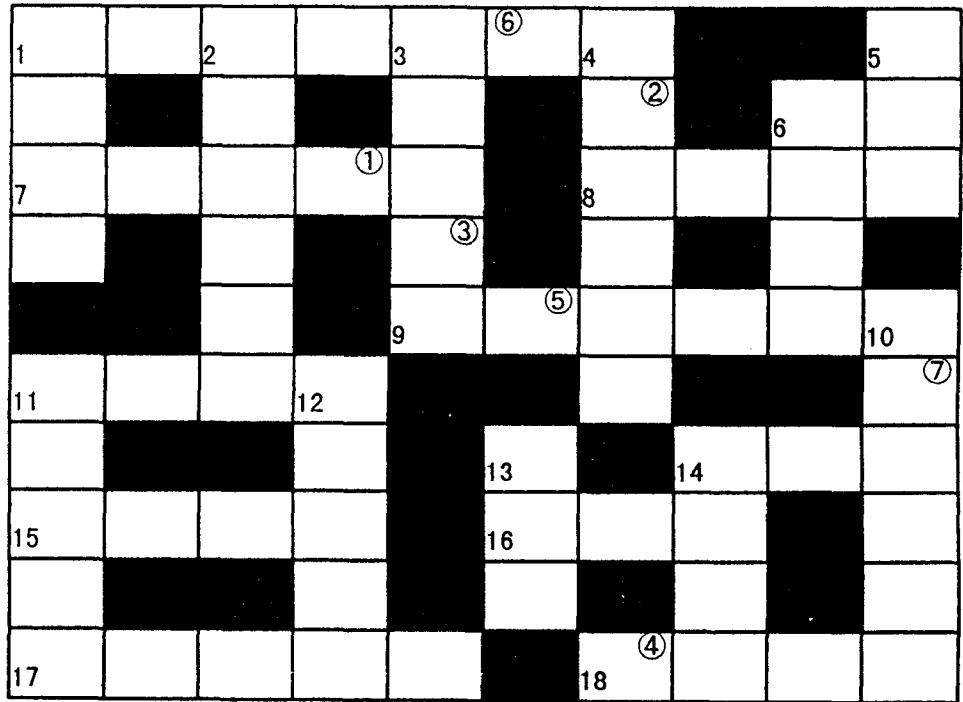
同氏の連絡先：
Ali Albugis
Jl. Cikditro IV No. 4
Manado 95121 Sulut
TEL: (0431)851855

「今度いつ来ることができるかわかりませんが、ぜひ消息を訪ねて一言お礼を言いたい」
第二次対戦中、インドネシアに駐屯する日本軍の通訳兵として従軍した現地人が、命の恩人でもあり師でもあった小隊長への再会を求めている。戦後四十年が過ぎ、今しか会える機会はない、と夫人と来日したものの、予想した以上に人捜しは困難だったという。今日二十八日成田発のキャセイ航空で帰国するが、「せめて手紙でもいいから連絡をとりたい」と本紙へ名乗り出た。再会を求めているのは、インドネシア・セレベス島のメナドで書店と観光業を営むアリ・アリブギスさん(五八)。太平洋戦争で戦没した人の慰霊碑を建てるなどの活動をしている南の島の会(高橋良雄代表)の調べによると、当時守備隊として現地に駐屯していたのは海軍・第二十三根拠地隊。その中にオーストラリア進撃を任務とした陸軍独立歩兵大隊372大隊373大隊があったが、その中の小隊ではなかったかという。当時、セレベス島再北端のギリアンで日本語学校の教師をしていたアリさんは山本小隊長から通訳兵としてスカウトされ、以後、現地の人と日本軍とのパイプ役を果たした。米軍機が来ると灯火管制を村々に伝える。米軍がまくビラを日本語に訳し伝える。そのほか村の青年団の指導などがアリさんの任務。山本小隊長は、入浴時には軍刀をアリさんに預けるほど信頼をおいていたという。山本小隊長は丸顔。ガッシリした体で笑顔を絶やさず、年齢は当時三十歳前後。アリさんは「ジロー」という愛称で呼ばれ、ひらがな、カタカナ、童話、童謡から民謡、流行歌まで、時間があれば小隊長から教わった。中でも山本小隊長の好きだった「純情二重奏」は今もそら覚えて歌詞が出てくる。

「今度いつ来ることができるかわかりませんが、ぜひ消息を訪ねて一言お礼を言いたい」
第二次対戦中、インドネシアに駐屯する日本軍の通訳兵として従軍した現地人が、命の恩人でもあり師でもあった小隊長への再会を求めている。戦後四十年が過ぎ、今しか会える機会はない、と夫人と来日したものの、予想した以上に人捜しは困難だったという。今日二十八日成田発のキャセイ航空で帰国するが、「せめて手紙でもいいから連絡をとりたい」と本紙へ名乗り出た。再会を求めているのは、インドネシア・セレベス島のメナドで書店と観光業を営むアリ・アリブギスさん(五八)。太平洋戦争で戦没した人の慰霊碑を建てるなどの活動をしている南の島の会(高橋良雄代表)の調べによると、当時守備隊として現地に駐屯していたのは海軍・第二十三根拠地隊。その中にオーストラリア進撃を任務とした陸軍独立歩兵大隊372大隊373大隊があったが、その中の小隊ではなかったかという。当時、セレベス島再北端のギリアンで日本語学校の教師をしていたアリさんは山本小隊長から通訳兵としてスカウトされ、以後、現地の人と日本軍とのパイプ役を果たした。米軍機が来ると灯火管制を村々に伝える。米軍がまくビラを日本語に訳し伝える。そのほか村の青年団の指導などがアリさんの任務。山本小隊長は、入浴時には軍刀をアリさんに預けるほど信頼をおいていたという。山本小隊長は丸顔。ガッシリした体で笑顔を絶やさず、年齢は当時三十歳前後。アリさんは「ジロー」という愛称で呼ばれ、ひらがな、カタカナ、童話、童謡から民謡、流行歌まで、時間があれば小隊長から教わった。中でも山本小隊長の好きだった「純情二重奏」は今もそら覚えて歌詞が出てくる。

インドネシア語 クロスワード・パズル

問題: 下のクロスワード・パズルを完成させた後、①-⑦までの文字を並べるとある地名になります。それは何でしょうか。



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

--	--	--	--	--	--	--

出題: 川井雄二

MENURUN タテのカギ	MENDATAR ヨコのカギ
<p>1 持って行く。送る。運ぶ。案内する。連れて行くもたらず。関係させる。</p> <p>2 Surga の反対。語源はサンスクリット語で、日本語の『奈落』と同じ。ちなみに『駿河』の名はSurga から由来するという説もある。</p> <p>3 動物名。Hidup dalam air, berkulit keras, berkaki sepuluh, bersepit dua, berekor, tidak bertulang. / Galah / Windu</p> <p>4 揚げる。炒める。 Nasi / Minyak / Pisang</p> <p>5 サメ。フカ。 gergaji = 鋸</p> <p>6 蕪 Mana di mana jantung saya, jantung tuan ada di kampung baru 日本人に大人気のカラオケ曲: 『 ku mu』 ber: 2 = 注意する。気をつける。</p> <p>10 Hotel と Penginapan の中間クラスの宿泊所。通常、温水シャワーやクーラーなどの設備はない</p> <p>11 努力。Per an = 企業。会社。</p> <p>12 色の一つ。 di atas putih / Kambing </p> <p>蕪 Ayam telurnya putih mencari makan...</p> <p>13 TK ⇔ SD ⇔ SMP ⇔ </p> <p>14 動物名。Tenaga = 馬力(TK と略す) laut := 竜の落し子。</p>	<p>1 都市名。1955年アジア・アフリカ会議の開催地。『Tangkuban Perahu』『Pajajaran 大学』が有名 ジョジャカルタやマランと共に学生都市とも言われる。 Halo halo ibu kota perianan 6 ホテル・インドネシアの略</p> <p>7 berita = ニュース wan 報道記者</p> <p>8 州名。石油産業の中心地。陸地の50%以上は海拔15m以下の低地。民謡『Solewam』は有名。 『Pekanbaru』『Tanjung Pinang』『Dumai』</p> <p>9 Lima adalah bilangan 奇数。 (反⇒Genap)</p> <p>11 Gaji / Imbalan bersih = 手取り賃金。 minimum = 最低賃金。</p> <p>14 金庫。 Negara = 国庫 / Bon = 借入金。</p> <p>15 慣習。風俗。風俗。 Hukum = 慣習法 istiadat = 風俗習慣</p> <p>16 Suka / Hendak tak = 仕方なく。 baik 甲 pun 乙 (甲だけではなく乙も)</p> <p>17 宗教。信仰。 Departmen = 宗教省 『ヨ 15』は山から、『ヨ 17』は海から。』という諺がある。</p> <p>18 葉。 salam pisang ♠ Satu satu nya berjatuhan Berserakan dipangkuan bumi (Flamboyanから)</p>

— 編集後記 —

試行錯誤で編集した日本人会会報第1号です。
創刊号という事や、時間的制約もあり、いろいろ物足りない点も多い
ことかと思いますが何とぞご容赦下さい。
この会報に関する皆様のご意見ご要望をお寄せ下さい。
次号からの参考に致します。

編集部では第2号発行に向けて早くも準備中です。
ただ今 **原稿募集中!**
この会報は編集部だけで作るものではありません。
日本人会の会員が全員参加する紙上交流の場として、会員相互の親睦と
情報交換を計ることを主目的としています。
また会報の編集を手伝って下さる方も併せて募集中です。
原稿の内容は、例えば下記のようなものです。

◎研究レポート

ミナハサ式住居の考察、ミナハサにおける丁字の歴史、
キリスト教は如何にして伝播したか、等々。

◎エッセイ

北スラウェシにとらわれなくとも結構です。

◎旅行情報。

特にゴロンタロウ地区、サンゲエ地区のデータが全くありません。

◎自社の事業説明。

日本人会の特色の一つは普段は全く関連のない業種の方と付き合
えることです。

◎イラスト/カット (白黒印刷となります)

◎各種情報

病院、イミグレ問題からホテル、レストランまで何でもどうぞ。
ネズミやこうもりを食材にしたミナハサ料理の体験談。

この会報の名称を募集中です。北スラウェシにちなんだ名称をお寄せ下
さい。例えば《南十字星》だと名前を聞いただけではジャカルタなのか、
シンガポールなのか分かりません。

例：『タルシウス/TARCIUS』『ニウール/NYIUR』『クラバット/KLABAT』
編集部は『タルシウス/TARCIUS』が一番語感が良いので推薦いたします。

1998年7月20日

日本人会会報編集部 編集部長：川口博康
編集部員：川井雄二

北スラウェシ日本人会総会

1998年7月9日 NOVOTELにて



(左より) 金子副領事/井上/広松/内田/前田/平野/
松田総領事/森井/西村/大城/長崎/牛崎/八巻



(左より) 村上/高沢/松浪/川口/前田/川井/松田総領事夫妻/
辻広/川口夫人/辻田/押川/大村/落合/総領事館員